

管弦打楽器学科

2年次生

学科名	管弦打楽器学科
科目名	スコアリーディング I
担当講師名	高橋伸哉
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

様々な借用和音について学びます。本科1年次に履修した和声法の基礎的範囲の理解をもとに、借用和音を含む四声体和声の分析力をしっかりと身に付けましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

準固有和音やV度V度の和音（ドッペルドミナント）をはじめとする、様々な借用和音を含む四声体和声分析ができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年時に学習した和声法の復習を実施します。
- ② 借用和音の一種である、準固有和音について学びます。
- ③ 借用和音の一種であるV度V度の和音について、基礎的事項を学びます。
- ④ V度V度の和音の根音省略形やV度V度の9について学びます。
- ⑤ V度V度の和音の下方変位について学びます。
- ⑥ 次週の間試験に向けて、練習問題を実施します。
- ⑦ 中間試験：準固有和音とV度V度の諸和音を含む、和声分析の筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。

分析記号類の書き方（正確さや見やすさ、丁寧さ）も採点の対象とします。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 中間試験の答え合わせを行うほか、復習問題も実施します。
- ⑨ 借用和音の一種である、II度V度の和音について学びます。

- ⑩借用和音の一種である、IV度V度の和音について学びます。
- ⑪借用和音の一種である、VI度V度の和音について学びます。
- ⑫これまでに学習した様々な借用和音について総まとめを行い、理解を深めます。
- ⑬各種の借用和音を含む、四声体和声分析の練習問題を実施します。
- ⑭次週の期末試験に向けて、練習問題を実施します。
- ⑮期末試験：学習した借用和音を含む、四声体和声分析の筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。

分析記号類の書き方（正確さや見やすさ、丁寧さ）も採点の対象とします。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	スコアリーディングⅡ
担当講師名	高橋伸哉
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

様々な作曲家の室内楽作品やオーケストラ作品、吹奏楽作品を分析します。これらの楽曲分析を通して音楽作品への理解を深め、演奏者としての表現力向上を目指しましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

確かな楽曲分析に基づく演奏表現ができるようになるほか、楽曲分析の結果を言葉によって説明するための文章力向上も期待できます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①短調の借用和音について、よく使われるものに範囲を絞って学びます。
- ②非和声音について学びます。
- ③借用和音の効果をはじめ、楽曲分析の様々なポイントについて学びます。
- ④バロック時代の作品を楽曲分析します。
- ⑤古典派時代の作品を楽曲分析します。
- ⑥ロマン派時代の作品を楽曲分析します。
- ⑦中間試験：楽曲分析の筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験をおこないます。
記述問題の文章力も大きな採点対象とします。
出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中間試験の答え合わせを行うほか、復習問題も実施します。
- ⑨ゼクエンツについて学びます。

- ⑩保続音について学びます。
- ⑪教会旋法について学びます。
- ⑫転調のしくみを、四声体和声の中で学びます。
- ⑬転調を含む楽曲の和声分析をします。
- ⑭次週の期末試験に向けて、本科目の総まとめを実施します。
- ⑮期末試験：楽曲分析の筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。
記述問題の文章力も大きな採点対象とします。
出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の 2 項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に 4 クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともあります。その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー、2声、4声聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音

- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

1年次同授業Ⅰ、Ⅱを継続して基礎練習全般を補充し、応用練習の方法を修得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今後もフルート奏法の全ての技術を高めていくための基本練習の方法の理解。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス一年次授業の補足と今年度授業内容の説明。
- ② スケール / 5グレード課題 Taffanel et Gaubert : E. J. 4
- ③ アルペッジョ / 転回形 (1) Taffanel et Gaubert : E. J. 8, 9, 11
- ④ 音の発展(1) 音量の変化
- ⑤ 音の発展(2) 音程の調整
- ⑥ 音の発展(3) 音色の変化
- ⑦ Iクォーター末試験（実技）

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解と到達度出席率、授業態度を加えて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音の発展(4) ヴィブラートの訓練
- ⑨ 音の発展(5) 音楽的なヴィブラートについて
- ⑩ スケール / 4グレード課題 Moyse : Ex. Journiers より
- ⑪ アルペッジョ / 転回形(2) Taffanel et Gaubert : E. J. 13
- ⑫ フラッター・タンギング
- ⑬ 替え指（音程修正のための）

⑭ 替え指（難しい音形、パッセージを容易にするための）

⑮ II クォーター末試験（実技）

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解と到達度出席率、授業態度を加えて評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	多田 逸左久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。本学においても、十数年来本講座或いは関連する講座を担当しています。

授業内容

楽器を演奏するために必要不可欠な、ロングトーン・音階・分散和音を、習熟を目指して演習します。Ⅰ・Ⅱクォーターでは、ロングトーンと \sharp \flat 3つまでの調性の音階と主和音分散和音を、2回繰り返して演習します。

加えて、それぞれの楽器のベーシックなエチュードの中から、相対する調性の曲を適宜演習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音階・分散和音については、テンポ \downarrow = 60（1回目）及び \downarrow = 80（2回目）を目標とします。エチュードについては、相応なテンポで、表情豊かな演奏を目指します。

一年間の演習を通して、自信の不得意領域を発見或いは再認識し、それを大幅に是正することが期待できます。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

① ガイダンス／Ⅰ・Ⅱクォーターの授業の指針を説明

→ハ長調・イ短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

②ヘ長調・ニ短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

③ト長調・ホ短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

④変ロ長調・ト短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

⑤ニ長調・ロ短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

⑥変ホ長調・ハ短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

⑦イ長調・嬰ヘ短調（1回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード

→Ⅰクォーターの総括／到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50%）・平常点（10%）・実技試験（40%）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ハ長調・イ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑨ヘ長調・ニ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑩ト長調・ホ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑪変ロ長調・ト短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑫ニ長調・ロ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑬変ホ長調・ハ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑭イ長調・嬰ヘ短調（2回目）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑮春学期の総括／Ⅱクォーター末実技試験予行演習
新曲初見視奏・音階・主和音分散和音・エチュード

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（クラリネット）
担当講師名	齋藤雄介
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロオーケストラに所属し、普段よりオーケストラや室内楽の実務を行なっています。

授業内容

楽器の演奏の基礎であるロングトーンやスケールを、都度講師が準備するテキストを使ってトレーニングします。

また、それを発展させた初見課題や、簡単なアンサンブルも取り入れながら、多角的にクラリネットのスキルアップを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

全ての調の音階を習得し、それを生かした楽曲の理解や読譜能力の向上に繋げて、楽しくクラリネットを吹くのが目的です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② スケール(1)
- ③ スケール(2)
- ④ スケール(3)
- ⑤ 主和音アルペジオ(1)
- ⑥ 主和音アルペジオ(2)
- ⑦ 到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 主和音アルペジオ(3)
- ⑨ 属7アルペジオ(1)

- ⑩ 属7アルペジオ(2)
- ⑪ 属7アルペジオ(3)
- ⑫ 減7アルペジオ(1)
- ⑬ 減7アルペジオ(2)
- ⑭ 減7アルペジオ(3)
- ⑮ 春楽器のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ (サクソフォーン)
担当講師名	波多江史朗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

基本技術の定着と基礎技術の実践への応用を学ぶ。
初歩的なアナリーゼ、音楽の様式を学び、より音楽への理解を深めることで表現力につなげていく。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基礎の更なる向上を目指し難易度の高い曲にも対応できる技術が得られる。表現力が身につく。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①【ガイダンス】
基礎とは何かを知る(技術的、音楽的)
- ②【腹式呼吸とアンブチャーについて考察する】
ネックを使ってのロングトーン。リードの硬さとアンブチャーの関係を知る。正しい姿勢と構え方を学ぶ。
- ③【指のポジションについて考察する①】
左手の理想的なポジションを知る。
- ④【指のポジションについて考察する②】
右手の理想的なポジションを知る。
サムフックの正しい使い方。小指の使い方。
- ⑤【音階を使った理想的呼吸と構えの実現①】
腹式呼吸、姿勢と手のポジションを崩さずに。
調号2つまでの長調。スラー。
- ⑥【音階を使った理想的呼吸と構えの実現②】
短調の特徴的分析。調号2つまでの短調。スラー。
- ⑦【タンギングとアーティキュレーション①】

舌の付け方動かし方についての考察。2つの異なる技術を知る(主に息を使用したアーティキュレーションと、舌で止めるアーティキュレーション)。ハーフタンギングを用いたスタッカート。【初見】簡単なソロ曲の初見課題。

【発表】スケールの発表会(スラー、タンギング)

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、スケール発表会10%

授業計画 (8回目から15回目)

⑧【タンギングとアーティキュレーション②】

様々なアーティキュレーションに対応する。スタッカート、アクセント、テヌートなど技術的に分析し学ぶ。【初見】簡単な二重奏の初見課題。

⑨【スケールを使用したアーティキュレーション】

スケールブック1~4のアーティキュレーションを用いて調号3つまでのスケールを完成させる。【初見】中難度の初見課題。

⑩【調号3つ以上のスケールの攻略】

小指の使用による難度の上昇を理解する。fis-mollでのTfキイの使用。PキイとTaキイの使い分けを学ぶ。【初見】簡単な二重奏の初見課題。

⑪【アルペジオの攻略】

ドミナントとトニックについて。減7の和音の分析。

小指の使い方、PキイとTaキイの使い分けを学ぶ。【初見】簡単なソロの初見課題。

⑫【3度進行スケールの攻略】

PキイとTaキイの使い分けを学ぶ。サイドキイの押さえ方を復習する。【初見】簡単なソロの初見課題。

⑬【ピアノとのチューニングをマスターする】

サクソフォーンの音程の特性を知り、ピアノとの演奏時に、より正確な音程で演奏するためのチューニングをマスターする。【初見】中難度ソロの初見課題。

⑭【アルティシモの奏法】

完全なる腹式呼吸の体得とアンブシャーについて考察する。特殊な指遣いについて運指表を使用し学ぶ。【初見】中難度のソロの初見課題。(現代的作品)

⑮【特殊奏法を知る～まとめ】

現代作品で用いられる技術の習得。スラップ、フラッター、重音、微分音、ポルタメントなど。【発表】スケール、アルペジオ、3度を様々なアーティキュレーションで。アルティシモコンクールを行い高め合う。

今後ここまでの基礎をどのように活かすかディスカッションする。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、スケール発表会10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春期の説明。身体の仕組み、マウスピース、アンブシュア、プレスコントロール、自然倍音、シラブルの理解を確認。個々のレベル確認。
- ② ノンタンギングロングトーン、クレッシェンド、デクレッシェンド、スラー、タンギングを理解。
- ③ 音域を広げる1
- ④ 音域を広げる2
- ⑤ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～④までの復習・応用1
- ⑥ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～④までの復習・応用2
- ⑦ ①～⑥の復習。

中間試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ スケールを学ぶ1
- ⑨ スケールを学ぶ2
- ⑩ オーケストラスタディを用いて、移調読みを学ぶ1
- ⑪ オーケストラスタディを用いて、移調読みを学ぶ2
- ⑫ コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う1
- ⑬ コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う2
- ⑭ コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う3
- ⑮ グループに分け、コラールを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

コラールを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、中難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（トランペット）
担当講師名	杉木淳一郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、海外での演奏経験も豊富で様々な教育手法の実務経験を持ちます。

授業内容

基礎を重視し、発音、音色や奏法を再確認しつつ、アーバンなど良く知られた教則本や、配布するプリントに基づき演奏技術を高める。また試験に関連付け、スケールや初見、表現力にも重点を置く。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ①デイリートレーニングの確立と奏法の研究
- ②演奏スタイルの研究および表現力の向上
- ③初見力とアンサンブルテクニクの向上

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 自己紹介、授業の説明
- ②ウォームアップ1&スケール 呼吸法、マウスピースの練習
- ③ウォームアップ2&スケール ロングトーン、ダイナミクスの練習
- ④ウォームアップ3&スケール 倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
- ⑤ウォームアップ4&スケール タンギングの練習
- ⑥まとめ 各自の練習メニューと課題
- ⑦試験形態は実技演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス 授業内容の説明
- ⑨アンサンブルの基礎1 デュエットの初見演奏、アンサンブルテクニク

- ⑩アンサンブルの基礎2 デュエットの初見演奏、アンサンブルテクニック
- ⑪アンサンブルの実習1 4重奏以上の編成、アンサンブルテクニック
- ⑫アンサンブルの実習2 4重奏以上の編成、アンサンブルテクニック
- ⑬アンサンブルの実習3 4重奏以上の編成、アンサンブルテクニック
- ⑭まとめ 演奏発表
- ⑮試験 レポート提出、演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, デイリートレーニングの確立と奏法の研究
- 2, 基礎技術の確認（音階・長調・短調の徹底）
- 3, アンサンブルの導入（作品を演奏しながらアンサンブルの基礎を学ぶ）
- 4, 作品研究・音楽スタイル、音楽史の知識など

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各自、デイリートレーニングの確立とスケールの理解
初見力とアンサンブルテクニックの向上

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 自己紹介、授業内容の説明
- ② ウォームアップ1 & スケール 呼吸法、マウスピースの練習
- ③ ウォームアップ2 & スケール ロングトーン、ダイナミクスの練習
- ④ ウォームアップ3 & スケール 倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
- ⑤ ウォームアップ4 & スケール タンギングの練習
- ⑥ まとめ 各自の練習メニューと課題
- ⑦ 試験 演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 授業内容の説明

- ⑨ アンサンブルの基礎 1 デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
- ⑩ アンサンブルの基礎 2 デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
- ⑪ アンサンブルの実習 1 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
- ⑫ アンサンブルの実習 2 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
- ⑬ アンサンブルの実習 3 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
- ⑭ アンサンブルの実習 4 4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
- ⑮ まとめ 演奏発表

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	大山智
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロ吹奏楽団、オーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

基本奏法を学び様々な演奏に対応できるスキルを身につける

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基本のスケールと応用ができるようになる

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス (授業内容の説明)、C-dur a-moll
- ② F-dur d-moll
- ③ B-dur g-moll
- ④ Es-dur c-moll
- ⑤ As-dur f-moll
- ⑥ Des-dur b-moll
- ⑦ Ges-dur es-moll、まとめ

中間試験評価方法・評価基準

スケールをどの程度習得できたか確認をする。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ 前回までの確認
- ⑨ G-dur e-moll
- ⑩ D-dur h-moll

- ⑪ A-dur fis-moll
- ⑫ E-dur cis-moll
- ⑬ H-dur gis-moll
- ⑭ アルペジオ
- ⑮ まとめ

期末試験評価方法・評価基準

スケールをどの程度習得できたか確認をする。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

特記事項

学科名	菅弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ（打楽器）
担当講師名	荻原松美
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

シエナ・ウインド・オーケストラ、そして他のオーケストラや室内楽において、クラシックパーカッションからドラムセット・ラテンパーカッション等、幅広いジャンルにて打楽器の演奏を経験してきました。

授業内容

ラテンパーカッション全般とドラムセットの基本奏法について講義、そして実際に生徒に実践してもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の奏法と同時に、各ジャンルの歴史やノリについても考察を深めます。

授業計画（1回目から7回目）

<キューバのリズム>

- ① 授業の説明
- ② チャチャチャ1
- ③ チャチャチャ2
- ④ マンボ1
- ⑤ マンボ2
- ⑥ リズムアンサンブル
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

各楽器の基本奏法の習得度。
アンサンブル内でのバランスとノリ。

授業計画（8回目から15回目）

<ブラジル系・その他のリズム>

- ⑧ アドリブ奏法
- ⑨ サンバ 1
- ⑩ サンバ 2・ボサノバ
- ⑪ ドラムセットの説明
- ⑫ ドラムセットのリズムパターン 1
- ⑬ ドラムセットのリズムパターン 2
- ⑭ リズムアンサンブル
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

各楽器の基本奏法の習得度。
アンサンブル内でのバランスとノリ。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅢ(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

この授業では色々な作品に使われている弦楽器ならではの表現を基本的なものを大切に勉強していきます
春学期ではクラシック音楽の親しみやすい曲を使って表現を追求していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

沢山の楽譜を見て素早く演奏でき さらに生き生きとしたアンサンブルが出来ることが到達目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① パッヘルベル カノンの演奏 まずは二長調の音階から始めます ゆっくり音を出していきます
- ② パッヘルベル カノンの演奏 カノンの持っている曲の作りを奏法の変化をもとに作りあげます
- ③ パッヘルベル カノンの演奏 色々なテンポで演奏していきます
- ④ バッハ G線上のアリア 譜面が細かいので低音の8分音符の動きを基準に演奏します
- ⑤ バッハ G線上のアリア フィンガリングとスラーの付け方を大切にしてフレーズを演奏します
- ⑥ バッハ G線上のアリア 通奏低音の音をしっかりと聞けるバランスで演奏します
- ⑦ カノンとG線上のアリア 1人ずつ演奏でテストをします

中間試験評価方法・評価基準

パッヘルベルとバッハの大切なところをピックアップして1人1人の演奏を評価します
また平常確認も大切にします

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク まずはト長調の音階から始めます
- ⑨ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に演奏します
- ⑩ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に後半から第二楽章へ
- ⑪ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 ハ長調の音階とメロディを中心に
- ⑫ モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 中間部 短調の部分をゆっくり練習します
- ⑬ アイネクライネ 第三楽章 メヌエットの基本的な弾き方から始めます
- ⑭ アイネクライネ 第三楽章のトリオの部分を練習します
- ⑮ アイネクライネ 1～3 楽章までをアンサンブルとしてまとめます

期末試験評価方法・評価基準

春学期後半からは ソロのみならず アンサンブル 普段の平常確認も大切に評価

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

基礎練習のまとめと応用。状態に応じた訓練のヴァリエーション。
基礎練習を実際のソロ、合奏パートの演奏に活かすための楽曲分析の方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際の楽曲演奏をより良いものにするために基礎練習を活用する方法を理解する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① スケール / 3グレード課題 Gilbert:Technical Flexibility
- ② アルペッジョ / 転回形 Taffanel et Gaubert : E. J. 15, 16
- ③ アナリーゼ（楽曲分析）1
- ④ アナリーゼ（楽曲分析）2
- ⑤ アナリーゼ（楽曲分析）3
- ⑥ アナリーゼ（楽曲分析）4
- ⑦ IIIクォーター末試験（実技）

中間試験評価方法・評価基準

課題楽曲の分析能力と、それを基にして基礎練習がどのように反映されているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モイーズの練習法 (Tschnical Mastery for the Virtuoso Flutist 他)
- ⑨ デボストの練習法 (Simple Flute)
- ⑩ グラーフの練習法 (Check-Up)
- ⑪ 替え指（音程のための）

- ⑫ 替え指（パッセージの難所を容易にするための）
- ⑬ 音質、音色の変化
- ⑭ ベーシックトレーニングのまとめ
- ⑮ 学年末試験（実技）

期末試験評価方法・評価基準

課題楽曲の演奏で基礎練習の反映度を評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	多田 逸左久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。本学においても、十数年来本講座或いは関連する講座を担当しています。

授業内容

楽器を演奏するために必要不可欠な、ロングトーン・音階・分散和音を、習熟を目指して演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、ロングトーンと $\sharp\flat$ 3つまでの調性の属七和音分散和音と三度音階及び $\sharp\flat$ 4～5の調性（含平行調）の音階と主和音分散和音を演習します。

加えて、それぞれの楽器のベーシックなエチュードの中から、相対する調性の曲を適宜演習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音階・分散和音については、テンポ $J = 60$ を目標とします。エチュードについては、相応なテンポで、表情豊かな演奏を目指します。

一年間の演習を通して、自信の不得意領域を発見或いは再認識し、それを大幅に是正することが期待できます。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

① ガイダンス／Ⅲ・Ⅳクォーターの授業の指針を説明

→ハ長調・イ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

②ヘ長調・ニ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

③ト長調・ホ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

④変ロ長調・ト短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

⑤ニ長調・ロ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

⑥変ホ長調・ハ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

⑦イ長調・嬰ヘ短調／ロングトーン・属七分散和音・三度音階 + 相対エチュード

→Ⅲクォーターの総括／到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50%）・平常点（10%）・実技試験（40%）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧変イ長調・ヘ短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑨ホ長調・嬰ハ短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑩変ニ長調・変ロ短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑪ロ長調・嬰ト短調／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑫分散和音の応用形（1）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑬分散和音の応用形（2）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑭分散和音の応用形（3）／ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
- ⑮一年間の総括／到達度確認テスト
新曲初見視奏・音階・主和音分散和音・エチュード

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」
出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（クラリネット）
担当講師名	齋藤雄介
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロオーケストラに所属し、普段よりオーケストラや室内楽の実務を行なっています。

授業内容

楽器の演奏の基礎であるロングトーンやスケールを、都度講師が準備するテキストを使ってトレーニングします。

また、それを発展させた初見課題や、簡単なアンサンブルも取り入れながら、多角的にクラリネットのスキルアップを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

全ての調の音階を習得し、それを生かした楽曲の理解や読譜能力の向上に繋げて、楽しくクラリネットを吹くのが目的です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 3度進行のスケール(1)
- ② 3度進行のスケール(2)
- ③ 3度進行のスケール(3)
- ④ さらに跳躍するスケール(1)
- ⑤ さらに跳躍するスケール(2)
- ⑥ さらに跳躍するスケール(3)
- ⑦ 到達度確認テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音階を発展させた初見課題(1)
- ⑨ 音階を発展させた初見課題(2)

- ⑩ 音階を発展させた初見課題(3)
- ⑪ 初見アンサンブル課題(1)
- ⑫ 初見アンサンブル課題(2)
- ⑬ 初見アンサンブル課題(3)
- ⑭ 秋学期のまとめ
- ⑮ 小発表会 (テスト)

期末試験評価方法・評価基準

出席率および授業での積極性を重視し、実技での完成度も加味して総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシクトレーニングⅣ(サクソフォン)
担当講師名	波多江史朗
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

基本技術の定着と基礎技術の実践への応用を学ぶ。
初歩的なアナリゼ、音楽の様式を学び、より音楽への理解を深めることで表現力につなげていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本技術の定着と基礎技術の実践への応用を学ぶ。
初歩的なアナリゼ、音楽の様式を学び、より音楽への理解を深めることで表現力につなげていく。

授業計画（1回目から7回目）

- ①【基礎技術の応用と実現～初級①】
エチュードを使用した基礎技術の応用。ラクール・50のエチュード上巻を使用する
【初見】中難度の初見課題。
- ②【基礎技術の応用と実現～初級②】
ラクール50のエチュード上巻を使用する。
【初見】中難度の初見課題。
- ③【基礎技術の応用と実現～初級③】
ラクール50のエチュード下巻を使用する。
【初見】中難度の初見課題。
- ④【基礎技術の応用と実現～初級④】
ラクール50のエチュード下巻を使用する。
【初見】中難度の初見課題。
- ⑤【基礎技術の応用と実現～中級①】
クローゼ日々の日課練習を使用する。
【初見】中難度の初見課題。

⑥【基礎技術の応用と実現～中級②】
クローゼ日々の日課練習を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑦【基礎技術の応用と実現～中級③】
クローゼ日々の日課練習を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点60%

授業計画（8回目から15回目）

⑧【基礎技術の応用と実現～上級①】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑨【基礎技術の応用と実現～上級②】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題

⑩【基礎技術の応用と実現～上級③】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑪【基礎技術の応用と実現～上級④】
ベルビギエ18の練習曲を使用する。

【初見】中難度の初見課題。

⑫【基礎技術の応用と実現～特級①】
フェルリング48のエチュードを使用する。

【初見】高度な初見課。

⑬【基礎技術の応用と実現～特級②】
フェルリング48のエチュードを使用する。

【初見】高度な初見課題(アルティシモを使用)

⑭【基礎技術の応用と実現～特級③】
ラクール20のメシアンのモードによるエチュードを使用する。

【初見】高度な初見課題(現代的作品)

⑮【一年のまとめ】

【発表】スケール課題、任意のエチュードの演奏、アルティシモコンクール、特殊奏法コンクールを行う。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点60%、発表10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 秋期の説明。ゲシュトップ、リップトリル、グリッサンドを理解1
- ② ゲシュトップ、リップトリル、グリッサンドを理解2
- ③ リップスラー、アルペジオ1
- ④ リップスラー、アルペジオ2
- ⑤ モーツァルトホルン協奏曲を学ぶ1
- ⑥ モーツァルトホルン協奏曲を学ぶ2
- ⑦ 楽曲を発表

中間試験評価方法・評価基準

楽曲を実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 1
- ⑨ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 2
- ⑩ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 3
- ⑪ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 4
- ⑫ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 5
- ⑬ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 6
- ⑭ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて復習・応用 7
- ⑮ ソロ、グループでオーケストラスタディ、エチュードを発表

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、中～高難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシクトレーニングⅣ（トランペット）
担当講師名	杉木淳一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、海外での演奏経験も豊富で様々な教育手法の実務経験を持ちます。

授業内容

- ①オーケストラスタディを学ぶ
- ②作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- ③トランスポーズ（読み替え）
- ④セクションでのアンサンブル

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トランスポーズ、音程、ダイナミクス、様式感の理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス 授業内容の説明
- ②トランスポーズ1 読み替えの方法
- ③トランスポーズ2 各種Clefの読み方
- ④オーケストラスタディ1 オーケストラの旋律を体験
- ⑤オーケストラスタディ2 オーケストラの旋律を体験
- ⑥まとめ mock auditionの体験
- ⑦試験 レポートもしくは実技試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス 授業内容の説明
- ⑨オケスタ（セクション1） セクションとしての演奏

- ⑩オケスタ（セクション2） サウンドの統一
- ⑪オケスタ（セクション3） スタイルの統一
- ⑫移調アンサンブル1 バロック以前の作品を用いて合奏
- ⑬移調アンサンブル2 バッハのオルガン曲を合奏
- ⑭移調アンサンブル3 古典派移行の作品を合奏
- ⑮試験 レポートもしくは実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業であるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, オーケストラスタディーを学ぶ
- 2, 作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- 3, トランスポーズ（読み替え）
- 4, セクションでのアンサンブル

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

トランスポーズ・音程・ダイナミクス・様式感の理解

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 授業内容の説明
- ② トランスポーズ1 読み替えの方法
- ③ トランスポーズ2 各種Clefの読み方
- ④ オーケストラスタディー1 オーケストラの旋律を体験
- ⑤ オーケストラスタディー2 オーケストラの旋律を体験
- ⑥ オーケストラスタディー3 オーケストラの旋律を体験
- ⑦ まとめ 模擬オーディションによる演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 授業内容の説明
- ⑨ オーケストラスタディー4（セクション） セクションとしての演奏

- ⑩ オーケストラスタディー5 (セクション) サウンドの統一
- ⑪ オーケストラスタディー6 (セクション) スタイルの統一
- ⑫ 移調アンサンブル1 バロック以前の作品で合奏
- ⑬ 移調アンサンブル2 バッハのオルガン曲を合奏
- ⑭ 移調アンサンブル3 古典派以降の作品を合奏
- ⑮ まとめ 演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 試験20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（ユーフォニアム・チューバ）
担当講師名	大山智
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロ吹奏楽団、オーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

エチュードやアンサンブルを通して必要な技術を習得する

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

エチュードとアンサンブルの基礎が身につく

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス（授業内容の説明）
- ② 様々なアーティキュレーション①、アンサンブル
- ③ 様々なアーティキュレーション②、アンサンブル
- ④ 半音階①、アンサンブル
- ⑤ 半音階②、アンサンブル
- ⑥ 跳躍①、アンサンブル
- ⑦ 跳躍②、アンサンブル まとめ

中間試験評価方法・評価基準

エチュードの理解とアンサンブルの質を確認する。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 前回までの確認
- ⑨ 様々なアルペジオ①、アンサンブル
- ⑩ 様々なアルペジオ②、アンサンブル
- ⑪ 高度なエチュード①、アンサンブル
- ⑫ 高度なエチュード②、アンサンブル

- ⑬ 高度なエチュード③、アンサンブル
- ⑭ まとめ
- ⑮ 発表

期末試験評価方法・評価基準

エチュードの理解とアンサンブルの質を確認する。
実技 40%、平常点 30%、出席 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ（打楽器）
担当講師名	荻原松美
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

シエナ・ウインド・オーケストラ、そして他のオーケストラや室内楽において、クラシックパーカッションからドラムセット・ラテンパーカッション等、幅広いジャンルにて打楽器の演奏を経験してきました。

授業内容

ティンパニ及びクラシック・パーカッション全般の基本奏法について講義。生徒に実践してもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の奏法と同時に、各ジャンル特有のニュアンスや表現の仕方についても考察を深めます。

授業計画（1回目から7回目）

<ティンパニ>

- ① 音程
- ② サイズと音域、音出し
- ③ ロール、バランス、セッティング
- ④ 交差、音止め
- ⑤ アンサンブル
- ⑥ 練習曲
- ⑦ テスト

中間試験評価方法・評価基準

ティンパニの基本奏法の習得度。
楽曲内におけるティンパニの役割、主音・属音を中心とした低音楽器としての表現の理解度。

授業計画（8回目から15回目）

<クラシック・パーカッション>

- ⑧ 大太鼓
- ⑨ 合わせシンバル
- ⑩ サスペンデッド・シンバル、タムタム
- ⑪ トライアングル
- ⑫ タンバリン
- ⑬ カスタネット
- ⑭ リズムアンサンブル
- ⑮ テスト

期末試験評価方法・評価基準

各楽器の基本奏法の習得度。

各楽器が各ジャンルに於いてどのように表現されてきたか、それぞれのニュアンスの理解度。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅣ(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

秋学期の授業も個人の演奏はもとより他のパートの動きをより理解した上での演奏が出来るようにアンサンブルを高めていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期からさらに 楽曲の楽譜に対応した演奏が目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① バッハ 主よ、人の望みの喜びよ の演奏 ト長調の音階練習から始めます
- ② バッハ 主よ、人の望みの喜びよ 三連符の弾き方に注意して演奏します
- ③ バッハ 主よ、人の望みの喜びよ ベースの動きをとらえながら アンサンブルしていきます
- ④ ボッケリーニ メヌエット イ長調の音階から始めます
- ⑤ ボッケリーニ メヌエット 装飾音の練習を中心に
- ⑥ ボッケリーニ メヌエット 内声パートを使った ピッチカーットの練習をします
- ⑦ バッハ and ボッケリーニそれぞれのパートのテスト

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽曲の大切なところをピックアップしてソロ演奏と平常確認も大切に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンダーソン プリンク プランク プランク 多彩なピッチカート奏法の研究
- ⑨ アンダーソン プリンク プランク バルトークピッチカートや 楽器を叩く奏法も取り上げます

- ⑩ アンダーソン 舞踏会の美女 華やかなワルツの曲をよく響かせる練習をします
- ⑪ アンダーソン 舞踏会の美女 ベースの頭打ち 内声のあとうちの噛み合わせを練習します
- ⑫ アンダーソン 舞踏会の美女 メロディを美しく歌う練習をします
- ⑬ アンダーソン 舞踏会の美女 バスパートを生かした アンサンブルで演奏します
- ⑭ アンダーソン 二曲を続けて演奏して曲のキャラクターを弾きわけます
- ⑮ プリンク プランク 舞踏会の美女 それぞれの大事なところを取り上げテストします

期末試験評価方法・評価基準

冬学期は アンサンブルに重点をおきます
普段からの平常確認で良い演奏を心がけてよいチームワークにしたいです

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	器楽ソルフェージュ I
担当講師名	周環悦 山岡潤 増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	木管、金管、打、弦楽器専攻生

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は作曲家、演奏家としての実務経験を持つ。

授業内容

基礎技術の充実・楽典的知識の演奏への応用・音楽基礎能力の向上・専攻楽器を使ったソルフェージュ力の向上

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽典的な知識を実際の演奏へ応用し、初見力を高めるとともに、より高い演奏能力を身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション（授業内容の説明など）
- ② 楽典と楽譜の読みとり方（拍子、メロディー・リズム）
- ③ 楽典と楽譜の読みとり方（楽語、記号等）
- ④ 初見演奏
- ⑤ 初見演奏
- ⑥ 1クォーターのまとめ、確認
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 初見演奏
- ⑨ 初見演奏
- ⑩ 初見演奏
- ⑪ 簡単なアンサンブルの初見演奏（譜読み）

- ⑫ ⑪の練習（演奏レベルの向上）
- ⑬ ⑪の練習（音楽性の向上）
- ⑭ 2クォーターのまとめ、確認
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

特記事項

授業で取り上げる課題、楽曲は、木管・金管・打楽器それぞれのクラスで異なります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	器楽ソルフェージュⅡ
担当講師名	周環悦 山岡潤 増田博之
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	木管、金管、打、弦楽器専攻生

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は作曲家、演奏家としての実務経験を持つ。

授業内容

基礎技術の充実・楽典的知識の演奏への応用・音楽基礎能力の向上・専攻楽器を使ったソルフェージュ力の向上

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽典的な知識を実際の演奏へ応用し、初見力を高めるとともに、より高い演奏能力を身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 初見演奏
- ② 初見演奏
- ③ 初見演奏
- ④ 歴史的に有名な作曲家の作品から、読譜、演奏。
- ⑤ 歴史的に有名な作曲家の作品から、読譜、演奏。
- ⑥ 3クォーターのまとめ
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 初見演奏
- ⑨ 初見演奏
- ⑩ 歴史的に有名な作曲家の作品から、読譜、演奏。
- ⑪ ⑩の練習（テクニックの向上）

- ⑫ ⑩の練習（テクニックの向上）
- ⑬ ⑩の練習（音楽性の向上）
- ⑭ 4クォーターのまとめ、確認
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

特記事項

授業で取り上げる課題、楽曲は木管 ・ 金管 ・ 打楽器それぞれのクラスで異なります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

1年次に学んだアンサンブルの基本的な技術を更に深く推し進めると共に、更に難度の高いオリジナルレパートリーの演習。アンサンブルの多様性、初見力などを身に付ける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル能力の追求とバロック、古典派の様式感を体得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 履修学生顔合わせ。インスペクター他係選出。
- ② 小編成2～5重奏曲1 / バロック音楽の様式（ボワモルティエ、W.F. バッハ等）
- ③ 小編成2～5重奏曲2 / バロック音楽の様式（ボワモルティエ、W.F. バッハ等）
- ④ 小編成2～5重奏曲3 / バロック音楽の様式（ボワモルティエ、W.F. バッハ等）
- ⑤ 小編成2～4重奏曲4 / 古典派音楽の様式（ベートーヴェン、クーラウ、ライヒャ等）
- ⑥ 小編成2～4重奏曲4 / 古典派音楽の様式（ベートーヴェン、クーラウ、ライヒャ等）
- ⑦ Iクォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

Iクォーター授業内容の理解、アンサンブル能力、出席率、授業態度などを総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 初見訓練1 小編成ゴールデン・エイジの作品（テュルー、ブリチアルディ等のDuo）
- ⑨ 初見訓練2 小編成ゴールデン・エイジの作品（テュルー、ブリチアルディ等のDuo）
- ⑩ 初見訓練3 クーラウ Duo
- ⑪ 初見訓練4 クーラウ Duo

- ⑫ 近代小、中編成楽曲（ボッサ、カステレード、ベルトミュー他）演習 1
- ⑬ 近代小、中編成楽曲（ボッサ、カステレード、ベルトミュー他）演習 2
- ⑭ 近代小、中編成楽曲（ボッサ、カステレード、ベルトミュー他）演習 3
- ⑮ IIクォーター末試験

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力と各エポックの様式の理解度に、出席率授業態度などの平常点を加えて評価する。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽 I (クラリネット)
担当講師名	中村めぐみ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広いの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッションレッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン、
- ⑩ レッスン。 ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑧ レッスン。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン、録音、ディスカッション。
- ⑪ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑫ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%、

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅰ・Ⅱクォーターでは、主として19世紀終わり頃までの作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス／一年間の授業指針を説明→ハイドン（1）／嬉遊曲 第1・2楽章
- ② ハイドン（2）／嬉遊曲 第3・4楽章
- ③ ダンツイ（1）／木管五重奏曲 変ロ長調 第1楽章
- ④ ダンツイ（2）／木管五重奏曲 変ロ長調 第2楽章
- ⑤ ダンツイ（3）／木管五重奏曲 変ロ長調 第3楽章
- ⑥ ダンツイ（4）／木管五重奏曲 変ロ長調 第4楽章
- ⑦ Ⅰクォーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50％）・平常点（10％）・実技試験（40％）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ライヒャ（１）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第１楽章
- ⑨ライヒャ（２）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第２楽章
- ⑩ライヒャ（３）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第３楽章
- ⑪ライヒャ（４）／ライヒャ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第４楽章
- ⑫タファネル（１）／タファネル： 木管五重奏曲 I
- ⑬タファネル（２）／タファネル： 木管五重奏曲 II
- ⑭タファネル（３）／タファネル： 木管五重奏曲 III
- ⑮IIクォーターの総括／授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	管弦打楽器科
科目名	室内楽Ⅲ（サクソフーン）
担当講師名	波多江史朗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

サクソフーン四重奏の基礎的な楽曲に取り組み、譜面を正しく読み取る技術を身につけ表現に結びつける。アンサンブルの技術を学ぶ。アルト以外のサクソフーンの演奏技術を身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル技法が身につく。プロとして必要な読譜能力が得られる。アルト以外の様々なサクソフーンに触れ吹きこなす技術を体得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①【ガイダンス】
楽器の振り分け、グループ分け、曲の配布。取り組む曲の鑑賞。
- ②【楽曲研究A①】
JB. サンジュレー／四重奏曲第1番 1楽章
- ③【楽曲研究A②】
JB. サンジュレー／四重奏曲第1番 1楽章2楽章
- ④【楽曲研究A③】
JB. サンジュレー／四重奏曲第1番 2楽章3楽章
- ⑤【楽曲研究A④】
JB. サンジュレー／四重奏曲第1番 3楽章4楽章
- ⑥【楽曲研究A⑤】
JB. サンジュレー／四重奏曲第1番 4楽章
- ⑦【楽曲研究A⑥】
JB. サンジュレー／四重奏曲第1番 4楽章
全曲クラス発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、発表会10%

授業計画（8回目から15回目）

⑧【楽曲研究B①】

クレリス/序奏とスケルツォ

⑨【楽曲研究B②】

クレリス/序奏とスケルツォ

⑧【楽曲研究C①】

ランティエ/アンダンテとスケルツェット

⑨【楽曲研究C②】

ランティエ/アンダンテとスケルツェット

⑩【楽曲研究D①】

Jフランス/小四重奏曲1楽章

⑪【楽曲研究D②】

Jフランス/小四重奏曲1. 2楽章

⑫【楽曲研究D③】

Jフランス/小四重奏曲2. 3楽章

⑬【楽曲研究D④】

Jフランス/小四重奏曲3楽章

⑭【楽曲研究D⑤】

Jフランス/小四重奏曲全曲

⑮【発表会】

今学期の任意の曲を振り分けた発表会をクラス内で行う。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、発表会10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（ホルン）
担当講師名	下田太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も2人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにしていく事を目標・目的としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス
- ②平易な二重奏と四重奏のアプローチ
- ③平易な二重奏と四重奏の演奏に取り組む
- ④狩りの楽器としてのホルンについて
- ⑤狩りの楽器としてのホルン音楽の発展（その2）
- ⑥室内楽作品として地位を得たホルンの作品
- ⑦ホルントリオに触れる

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、受講態度、出席状況、作品の読譜力、作品の分析力、リハーサルをまとめて行く力などにより評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ウイーンの近代作品
- ⑨ドイツの近代作品
- ⑩ホミリウスの作品
- ⑪ホミリウス全曲まとめ
- ⑫ウイーンバルトホルン合奏団の歴史と作品
- ⑬1800年代の二重奏の作品
- ⑭1800年代の二重奏の作品
- ⑮春学期のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業の態度、作品の分析力、室内楽の演奏の完成に向けてのまとめかた、演奏力などから評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

音程と和音の理論を学習し、二重奏と四重奏の演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリー研究を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音程と和音を理解し、二重奏と四重奏のコラールでそれらを認識しながら演奏できるようになります。アンサンブルの基礎を学び、基本的な技術を習得できます。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス
- ②音程の理論を学習します。ユニゾンを合わせる練習をします。
- ③和音の理論を学習します。完全音程と3度を合わせる練習をします。二重奏のグループ分けをします。
- ④完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑤完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑥完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンをを行います。
- ⑦二重奏の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。
出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧完全音程、3度、三和音を合わせる練習をします。四重奏のグループ分けを行います。
- ⑨三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑩三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑪三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑫四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑬四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑭四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑮四重奏の発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。
出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表 授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 発表20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（ユーフォニアム・チューバ）
担当講師名	齋藤充
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・チューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・チューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② デュエットを学ぶ
- ③ デュエットの理解を深める
- ④ デュエットのまとめ
- ⑤ トリオの導入
- ⑥ トリオの理解を深める
- ⑦ トリオのまとめ

中間試験評価方法・評価基準

デュエットとトリオの演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ カルテットの導入、合唱曲を用いて

- ⑩ 合唱曲の理解を深める
- ⑪ 合唱曲のまとめ
- ⑫ カルテットの応用、バロック作品を用いて
- ⑬ バロック作品の理解を深める
- ⑭ バロック作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

デュエット、トリオ、カルテット、そして初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

⑩ 楽曲演習・構成 2

⑪ 楽曲演習・構成 3

⑫ 楽曲演習・構成 4

⑬ 楽曲演習・構成 5

⑭ 楽曲演習・構成 6

⑮ 授業内発表

学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（アインザッツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
 - ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
 - ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
 - ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
 - ⑭ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑥
- 試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑮ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クォーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

様々なアンサンブル技術全般の総まとめ。及び編曲作品、邦人作品の演習。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル技術の修得、本番へ向けたリハーサルの心得の理解。
編曲作品の演奏への対応力。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 編曲作品1 / 弦楽合奏曲
- ② 編曲作品2 / 弦楽合奏曲
- ③ 編曲作品3 / 弦楽合奏曲
- ④ 編曲作品4 / 管弦楽曲
- ⑤ 編曲作品5 / 管弦楽曲
- ⑥ 編曲作品6 / 管弦楽曲
- ⑦ IIIクォーター末試験：授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

編曲作品演奏の注意点の理解度と、フルートアンサンブル演奏として仕上げる能力を総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 邦人作品1 / 小編成楽曲演習
- ⑨ 邦人作品2 / 小編成楽曲演習
- ⑩ 邦人作品3 / 中編成楽曲演習
- ⑪ 邦人作品4 / 中編成楽曲演習

- ⑫ フルート・オーケストラ作品 1
- ⑬ フルート・オーケストラ作品 2
- ⑭ フルート・オーケストラ作品 3
- ⑮ 学年末試験：授業内発表

期末試験評価方法・評価基準

近、現代作品の演奏能力と総合的なアンサンブル技術の到達度を評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（クラリネット）
担当講師名	中村めぐみ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広いの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊官特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッションをしながらレッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン。ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑪ レッスン。
- ⑫ レッスン。
- ⑬ レッスン、録音。ディスカッション。
- ⑭ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑮ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%、

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、主として近代以降の作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミヨー（1）／ルネ王の暖炉 I・II
- ②ミヨー（2）／ルネ王の暖炉 III・IV・V
- ③ミヨー（3）／ルネ王の暖炉 VI・VII
- ④イベール（1）／三つの小品 I
- ⑤イベール（2）／三つの小品 II
- ⑥イベール（3）／三つの小品 III
- ⑦Ⅰクォーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50％）・平常点（10％）・実技試験（40％）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧セルヴァンスキー（１）／木管五重奏曲 I
- ⑨セルヴァンスキー（２）／木管五重奏曲 II
- ⑩セルヴァンスキー（３）／木管五重奏曲 III
- ⑪ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 I
- ⑫ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 II・III
- ⑬ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 IV
- ⑭ヒンデミット（１）／ヒンデミット： 小室内楽曲 V
- ⑮一年間の総括／室内楽発表会（バリオホール）

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

バリオホールでの室内楽発表会では、原則として受講者全員で演奏します。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（サクソフォン）
担当講師名	波多江史朗
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽、室内楽など幅広い音楽分野での演奏経験と音楽大学での10年の教員歴がある。

授業内容

本格的サクソフォン四重奏の高度な楽曲に取り組む。アンサンブルの技術を学ぶ。アルト以外のサクソフォンの演奏技術を身につける。レパートリーの拡充。ラージアンサンブルに取り組む。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル技法が身につく。プロとして必要な読譜能力が得られる。アルト以外の様々なサクソフォンに触れ吹きこなす技術を体得する。レパートリーが拡充される。ラージアンサンブルでオーケストラの語法を学ぶ。

授業計画（1回目から7回目）

- ①【楽曲研究A①】
ピエルネ/民謡ロンドによる序奏と変奏
- ②【楽曲研究A②】
ピエルネ/民謡ロンドによる序奏と変奏
- ③【楽曲研究B①】
デザンクロ/四重奏曲1楽章
- ④【楽曲研究B②】
デザンクロ/四重奏曲1楽章2楽章
- ⑤【楽曲研究B③】
デザンクロ/四重奏曲2楽章
- ⑥【楽曲研究B④】
デザンクロ/四重奏曲2楽章3楽章
- ⑦【楽曲研究B⑤】
デザンクロ/四重奏曲3楽章

中間試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点60%

授業計画（8回目から15回目）

①【楽曲研究C①】

パスカル/四重奏曲1楽章

②【楽曲研究C②】

パスカル/四重奏曲1楽章2楽章

③【楽曲研究C③】

パスカル/第一四重奏曲2楽章3楽章

④【楽曲研究C④】

パスカル/四重奏曲3楽章4楽章

⑤【楽曲研究C⑤】

パスカル/四重奏曲4楽章

⑥【楽曲研究C⑥】

ピエルネ、デザンクロ、パスカルの発表会选择曲

⑦【楽曲研究C⑦】

ピエルネ、デザンクロ、パスカルの発表会选择曲

⑧【発表会】

ピエルネ、デザンクロ、パスカルのいずれかの作品を発表する。

期末試験評価方法・評価基準

出席40%、平常点50%、発表会10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（ホルン）
担当講師名	下田太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も2人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにして行く事を目標・目的としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フランス近代の代表的な作品（その1）
- ② フランス近代の代表的な作品（その2）
- ③ フランス近代の代表的な作品（その3）
- ④ フランス近代の代表的な作品（その4）
- ⑤ フランス近代の代表的な作品（その5）
- ⑥ E. ボザの演奏のまとめ
- ⑦ E. ボザのカルテットの試演

中間試験評価方法・評価基準

作品に対する個人としての楽曲に対するパートに対しての理解力、フレージングの理解、和声的な動きに対する理解度、音量バランスの理解、アンサンブル力、読譜力の出席率、授業の受講態度などを加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ H. ユーリセンの作品（その1）
- ⑨ H. ユーリセンの作品（その2）
- ⑩ T. ディッカウの作品（その1）
- ⑪ T. ディッカウの作品（その2）
- ⑫ T. ディッカウの作品（その3）
- ⑬ E. ザイフリートの作品（その1）
- ⑭ E. ザイフリートの作品（その2）
- ⑮ 新曲をその場でリハーサルして組み立て

期末試験評価方法・評価基準

個々のパートに対する譜読力、曲全体における役割の把握、和声的合わせる力、バランスの力、アンサンブルをリードする力などと共に日頃の受講態度、出席状況を加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

二重奏から大編成のトランペットアンサンブルの演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリーを学習します。

※シンプソン：ソナチネ、ブランド：カントリーピクチャーズ等

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を分析できます。アンサンブルの基本的な技術を習得し、自分たちで練習方法を考え上達できます。客観的に演奏を聞くことが出来るようになります。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス及びチーム編成を行います。
- ②三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ③三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ④三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑤三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑥三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。
- ⑦三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンをを行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑨二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑩二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑪二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑫二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑬二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑭二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑮発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表会・授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席50% 平常点30% 発表20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・アインザッツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（ユーフォニアム・チューバ）
担当講師名	齋藤充
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・チューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・チューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② オリジナルのカルテット作品を学ぶ
- ③ オリジナルのカルテット作品の理解を深める
- ④ オリジナルのカルテット作品のまとめ
- ⑤ 現代の作品に触れる
- ⑥ 現代の作品の理解を深める
- ⑦ 現代の作品のまとめ

中間試験評価方法・評価基準

オリジナル曲と現代作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ 編曲作品に触れる

- ⑩ 編曲作品の理解を深める
- ⑪ 編曲作品のまとめ
- ⑫ 自分で編曲を試みる
- ⑬ 自編作品の演奏
- ⑭ 自編作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

編曲作品と自編作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（金管五重奏）
担当講師名	若林 毅
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

プロのオーケストラの室内楽に多数参加。

授業内容

本室内楽クラスでは、金管五重奏の形式でアンサンブルの重要性を学びます。主にベーシックな楽曲を取り上げハーモニー、フレーズ、音色感の扱い方を理解し、独奏曲やオーケストラ、吹奏楽を含む様々な形態の室内楽に対応できる知識、感覚を身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

室内楽でそれぞれが担う役割をよく理解し有機的に楽曲を構成する様々なスキルを習得。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② 楽曲演習・表現1 金管五重奏の重要なレパートリーを通して5人で一つの音楽を表現する方法を考え、実践する。
- ③ 楽曲演習・表現2
- ④ 楽曲演習・表現3
- ⑤ 楽曲演習・表現4
- ⑥ 楽曲演習・表現5
- ⑦ 授業内発表 クォーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス
- ⑨ 楽曲演習・発展1 楽曲のレベルを上げて、音楽表現と演奏技術の両立を図る。

- ⑩ 楽曲演習・発展 2
- ⑪ 楽曲演習・発展 3
- ⑫ 楽曲演習・発展 4
- ⑬ 楽曲演習・発展 5
- ⑭ 楽曲演習・発展 6
- ⑮ 授業内発表

学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（アインザッツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、春学期よりも完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑭ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クォーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダード・マーチ及び20世紀初・中期の歴史的作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況の評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレーズングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレーズングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6 : 少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1 : 伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2 : 独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1 : 曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2 : コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3 : ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップⅢ
担当講師名	大山智
学期	春
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	管弦打楽器専攻

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリーやソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップⅣ
担当講師名	大山智
学期	秋
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	管弦打楽器専攻

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリーやソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル A I (同族)
担当講師名	福島弘和 増田博之 東條あずさ 芳賀傑
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽、ジャズ、劇伴、スタジオ録音、TV 収録など多岐に渡る現場での活動を経て様々なジャンルの実演、編曲経験を持ちます。
アンサンブルや吹奏楽の分野においても作編曲作品を国内外で多数出版しており、実際の現場でもプロフェッショナル、アマチュア問わず多くの演奏家に作品提供をし、実演されている経験を持ちます。

授業内容

楽譜の基本的な書き方や編曲法 (コード理論、オブリガードの書き方など)を学びます。
授業ごとに生徒自身で編曲した楽譜の音出しを行い、各楽器の音域やパートの役割が適切か、移調やアーティキュレーション等の記譜法が適切か、編曲のアイデアや創意工夫があるかどうかなどを、講師だけでなく生徒同士でも積極的にディスカッションを行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基本的な楽譜の書き方やコード理論を習得し、楽器編成に合わせた簡単なアンサンブルの譜面を作成出来る事を目標としています。
また、編曲をすることを通して、世の中に流通している様々な楽譜や音楽のメロディやリズムの要素、パートの役割やスコアリングなどを敏感にキャッチ出来る様に指導を行います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ガイダンス: 年間の授業内容や到達目標、評価方法などの説明をします。
- ② 基本的な楽譜の書き方や移調などの確認をします。
- ③ 各楽器の適正な音域や音域ごとの音色、効果を実際の楽曲から勉強をします。
- ④ コード理論 I : ダイアトニックのスケールとコードのしくみを勉強します。
- ⑤ コード理論 II : ダイアトニックのコード進行を実際の楽曲から研究します。
- ⑥ 簡単なアンサンブル譜面の作成をします。
- ⑦ 試験: 実施した簡単な編曲作品の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の発表を授業内にて行います。

出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。

曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 既存のメロディに対するコード付けの練習をします。
- ⑨ 既存のメロディに対するリズム伴奏パターンを実際の楽曲を参考にしつつ作成します。
- ⑩ 既存のメロディに対するベースラインとオブリガードを実際の楽曲を参考にしつつ作成します。
- ⑪ 発表に向けて①：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑫ 発表に向けて②：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑬ 発表に向けて③：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑭ 発表に向けて④：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑮ 発表会：合同発表会

期末試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の合同発表会を行います。

出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。

曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル A II (同族)
担当講師名	福島弘和 増田博之 東條あずさ 芳賀傑
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽、ジャズ、劇伴、スタジオ録音、TV 収録など多岐に渡る現場での活動を経て様々なジャンルの実演、編曲経験を持ちます。
アンサンブルや吹奏楽の分野においても作編曲作品を国内外で多数出版しており、実際の現場でもプロフェッショナル、アマチュア問わず多くの演奏家に作品提供をし、実演されている経験を持ちます。

授業内容

楽譜の基本的な書き方や編曲法 (コード理論、オブリガードの書き方など)を学びます。
授業ごとに生徒自身で編曲した楽譜の音出しを行い、各楽器の音域やパートの役割が適切か、移調やアーティキュレーション等の記譜法が適切か、編曲のアイデアや創意工夫があるかどうかなどを、講師だけでなく生徒同士でも積極的にディスカッションを行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

コード理論やオブリガードの書き方などの編曲法を習得し、楽器編成に合わせた高度なアンサンブルの譜面を作成出来る事を目標としています。
また、編曲をすることを通して、世の中に流通している様々な楽譜や音楽のメロディやリズムの要素、パートの役割やスコアリングなどを敏感にキャッチ出来る様に指導を行います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① コード理論 III : セカンダリードミナントについて実際の楽曲から勉強をします。
- ② コード理論 IV : 7th などのテンションコードについて実際の楽曲から勉強をします。
- ③ コード理論 V : ディミニッシュコードやオーギュメントコードなどについて実際の楽曲から勉強をします。
- ④ クォーター末発表会に向けての曲ぎめや構成、アレンジを固めます。
- ⑤ 発表に向けて① : 発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑥ 発表に向けて② : 発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑦ 発表会 : 実施した編曲作品の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の発表を授業内にて行います。
出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。
曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリジナルアレンジ制作①：I[~]III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑨ オリジナルアレンジ制作②：I[~]III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑩ オリジナルアレンジ制作③：I[~]III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑪ 発表に向けて①：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑫ 発表に向けて②：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑬ 発表に向けて③：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑭ 発表に向けて④：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑮ 発表会：合同発表会

期末試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の合同発表会を行います。
出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。
曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル B I (ポップス)
担当講師名	宮崎 明生
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

総合表現制作実習や各コース、学科の「ライブ」の機会に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 自己紹介&ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: I Can't Turn You Loose)
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: My Mama Told Me So)
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: Samba Do Marcos)
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: Canptain Caribe)
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: You make me feel brand new)
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。(暗譜推奨です!) 勢いの

有るステージングを目指します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Carnaval）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Get it on）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Getaway）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：La Yellow Head）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Bobs Jazz）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：雪の華）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

曲目は前年度までの例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル BⅡ (ポップス)
担当講師名	宮崎 明生
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

総合表現制作実習や各コース、学科の「ライブ」の機会に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：水色の雨)
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：ロッキーのテーマ)
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：マッカーサーパーク)
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：Copernicus)
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：Freedom At Midnight)
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。(暗譜推奨です!) 勢いの

有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：I want you back）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：5匹の子ブタとチャールストン）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Antigua Boy）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Sined sealed）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：You are everything）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Brazil）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

曲目は前年度までの例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	管弦打楽器指導法Ⅰ
担当講師名	佐藤正人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

管打楽器指導法は、吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器の知識と指導法を学ぶ。中・高校生への指導を前提に、楽器の基本的理論と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着ける。

授業内容

演奏家・教育者、指導者として必要な理論と知識を総合的に考察、管弦打楽器についての機能及びその指導法を学ぶ。中高生への指導を想定し、必要な合奏指導を適切な順序で指導を行い、現場で求められる指導力を実践的に身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の知識と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着け、将来求められる指導力を、実践を通して身につけることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 各楽器の指導法について。指導者としての心構え
- ② 木管楽器の指導①フルートの指導 ※吹奏楽の楽器編成
- ③ 木管楽器の指導②クラリネットの指導
- ④ 木管楽器の指導③サクソフォーンの指導
- ⑤ 木管楽器の指導④サクソフォーンの指導（サクソルン属の解説）
- ⑥ 木管楽器の指導⑤オーボエ、バスーン編
- ⑦ アンサンブル指導と室内楽

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、授業内で実際の指導と発表を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。指導発表と確認テスト（80%）平常（20%）で総合的に評価。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 金管楽器の指導①トランペットの楽器の知識
- ⑨ 金管楽器の指導②トランペット・ホルネットの指導と実践
- ⑩ 金管楽器の指導②ホルンの指導 ※金管楽器の室内楽
- ⑪ 吹奏楽編成で使用される楽器 1：名称や調性の他、音域や特性等の構造を理解
- ⑫ 金管楽器の指導③トロンボーンの指導
- ⑬ 金管楽器の指導④ユーフォニアムの指導の他、音域や特性等の構造を理解
- ⑭ 楽器指導法のまとめ（ディスカッションを通し、課題を共有）

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や発表（出席率含）に加え、理解度を加味して評価。また、理解や学習内容を深める評価は、各楽器の知識の発表及び合奏指導の事前準備等を総合的に評価。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	管弦打楽器指導法Ⅱ
担当講師名	佐藤正人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

管打楽器指導法は、吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器の知識と指導法を学ぶ。中・高校生への指導を前提に、楽器の基本的理論と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着ける。

授業内容

演奏家・教育者、吹奏楽指導者として必要な理論と知識を総合的に考察、管弦打楽器についての機能及びその指導法を学ぶ。中高生への指導を想定し、必要な合奏指導を適切な順序で指導を行い、現場で求められる指導力を実践的に身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の知識（歴史、同属楽器、構造、奏法、メンテナンス、レパートリー）と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着け、将来求められる指導力を、実践を通して身につけることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①フルート1：基礎知識の理解、楽器の組み立て、頭部管の発音
- ②フルート2：同属楽器について、構え方、運指
- ③フルート3：タンギングと倍音を取り入れた、簡単なメロディーの演奏
- ④クラリネット1：基礎知識の理解、楽器の組み立て、マウスピースとバレルの発音
- ⑤クラリネット2：同属楽器について、構え方、運指
- ⑥クラリネット3：タンギングとレジスターキーを使用した、簡単なメロディーの演奏
- ⑦理解度確認（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、授業内で実際の指導と発表を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。指導発表と確認テスト（80%）平常（20%）で総合的に評価。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧吹奏楽の楽器とアンサンブル指導（同属楽器、混合編成）
- ⑨打楽器の指導①太鼓（膜鳴楽器）吹奏楽・オーケストラの打楽器について
- ⑩打楽器の指導②鍵盤打楽器、ラテン楽器、アンサンブル体験
- ⑪楽器の知識：ハープについてについて
- ⑫楽器の知識：コントラバス（弦楽器）について
- ⑬合奏指導の基礎：吹奏楽の楽器編成と編曲の基礎知識
- ⑭吹奏楽指導の知識：吹奏楽のレパートリー研究
- ⑮吹奏楽指導 確認問題実施

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や意欲（出席率含）に加え、吹奏楽検定 3 級の合否を加味して評価します。意欲における評価は、授業開始時に行う前週の確認や授業内の質疑応答を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ B I
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行いAプロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行いBプロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生とAプロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生とBプロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生とABプロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べAプロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べBプロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ BII
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏Ⅲ
担当講師名	織田浩司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/オーメンズ・オブ・ラヴ
- ② 宝島
- ③ となりのトトロ
- ④ ディスコキッド
- ⑤ 君の瞳に恋してる
- ⑥ ミッキーマウスマーチ
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アラジンメドレー
- ⑨ スウィングしなけりゃ意味が無い

- ⑩ イン・ザ・ムード
- ⑪ ゲッタウェイ
- ⑫ 人生のメリーゴーランド
- ⑬ キルビルのテーマ
- ⑭ ライオンキングメドレー
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価致します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏IV
担当講師名	織田浩司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セレブレーション
- ② すべてをあなたに
- ③ 東京ディズニーリゾートメドレー
- ④ ドラえもん JAZZ
- ⑤ DANCIN'会津磐梯山
- ⑥ デイトリッパー
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クリスマスメドレー

- ⑨ ベイシー・ストレート・アヘッド
- ⑩ チキン
- ⑪ 銀河鉄道 999
- ⑫ リトルマーメイドメドレー
- ⑬ ミシェル・ルグランメドレー
- ⑭ バードランド
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	器楽ソルフェージュ I
担当講師名	周環悦 山岡潤 増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	木管、金管、打、弦楽器専攻生

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は作曲家、演奏家としての実務経験を持つ。

授業内容

基礎技術の充実 ・ 楽典的知識の演奏への応用 ・ 音楽基礎能力の向上 ・ 専攻楽器を使ったソルフェージュ力の向上

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽典的な知識を実際の演奏へ応用し、初見力を高めるとともに、より高い演奏能力を身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション（授業内容の説明など）
- ② 楽典と楽譜の読みとり方（拍子、メロディー・リズム）
- ③ 楽典と楽譜の読みとり方（楽語、記号等）
- ④ 初見演奏
- ⑤ 初見演奏
- ⑥ 1クォーターのまとめ、確認
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 初見演奏
- ⑨ 初見演奏
- ⑩ 初見演奏
- ⑪ 簡単なアンサンブルの初見演奏（譜読み）

- ⑫ ⑪の練習（演奏レベルの向上）
- ⑬ ⑪の練習（音楽性の向上）
- ⑭ 2クォーターのまとめ、確認
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

特記事項

授業で取り上げる課題、楽曲は、木管・金管・打楽器それぞれのクラスで異なります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	器楽ソルフェージュⅡ
担当講師名	周環悦 山岡潤 増田博之
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	木管、金管、打、弦楽器専攻生

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は作曲家、演奏家としての実務経験を持つ。

授業内容

基礎技術の充実 ・ 楽典的知識の演奏への応用 ・ 音楽基礎能力の向上 ・ 専攻楽器を使ったソルフェージュ力の向上

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽典的な知識を実際の演奏へ応用し、初見力を高めるとともに、より高い演奏能力を身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 初見演奏
- ② 初見演奏
- ③ 初見演奏
- ④ 歴史的に有名な作曲家の作品から、読譜、演奏。
- ⑤ 歴史的に有名な作曲家の作品から、読譜、演奏。
- ⑥ 3クォーターのまとめ
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 初見演奏
- ⑨ 初見演奏
- ⑩ 歴史的に有名な作曲家の作品から、読譜、演奏。
- ⑪ ⑩の練習（テクニックの向上）

- ⑫ ⑩の練習（テクニックの向上）
- ⑬ ⑩の練習（音楽性の向上）
- ⑭ 4クォーターのまとめ、確認
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

読譜力、演奏力、出欠席より評価します。

特記事項

授業で取り上げる課題、楽曲は木管 ・ 金管 ・ 打楽器それぞれのクラスで異なります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅲ（弦楽器）
担当講師名	舘市正克 他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

多様な運弓奏法で多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて多くの奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲の選定を行い、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式と意図を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではの純正調に挑む
- ⑭ 楽曲の全体像を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

アンサンブルの基本を学ぶので、個人演奏の向上に役立つ。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅳ（弦楽器）
担当講師名	舘市正克 他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

多様な運弓奏法とフィンガリングで多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を深く広く習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて様々な奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲の選定を行い、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：50% 実演：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式や時代背景を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたテンポ感覚とアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではのフラジオレットと純正調を理解する
- ⑭ 楽曲の全体像と意図を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。

出席：50% 試験：50%

特記事項

弦楽合奏ならではの幅広く奥深い響きを体験し、心豊かな人間を育成する。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ B I
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行いAプロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行いBプロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生とAプロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生とBプロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生とABプロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べAプロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトの夕べBプロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ BII
担当講師名	舘市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、 下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップⅢ
担当講師名	高梨裕久
学期	春
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	吹奏楽・マーチング専攻

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

【集中講座】

楽曲分析や学外研修におけるレポート作成について学ぶ。
演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
また学外研修においてはどのように報告を行うか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチすること。
研修記録では、社会人として必要なスキルを身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析、研修記録レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨

- ⑩
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析、研修記録レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップⅣ
担当講師名	高梨裕久
学期	秋
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	吹奏楽・マーチング専攻

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
また「プレゼンテーション」の授業とも連携させ、資料の作成や発表の仕方を考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチすること。
資料作成や発表では、社会人として必要なスキルを身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析、プレゼンテーション資料作成

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析、プレゼンテーション資料作成

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダード・マーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレーズングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレーズングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6 : 少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1 : 伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2 : 独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1 : 曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2 : コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3 : ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏Ⅲ
担当講師名	織田浩司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/オーメンズ・オブ・ラヴ
- ② 宝島
- ③ となりのトトロ
- ④ ディスコキッド
- ⑤ 君の瞳に恋してる
- ⑥ ミッキーマウスマーチ
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アラジンメドレー
- ⑨ スウィングしなけりゃ意味が無い

- ⑩ イン・ザ・ムード
- ⑪ ゲッタウェイ
- ⑫ 人生のメリーゴーランド
- ⑬ キルビルのテーマ
- ⑭ ライオンキングメドレー
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏IV
担当講師名	織田浩司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。
毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セレブレーション
- ② すべてをあなたに
- ③ 東京ディズニーリゾートメドレー
- ④ ドラえもん JAZZ
- ⑤ DANCIN'会津磐梯山
- ⑥ デイトリッパー
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クリスマスメドレー

- ⑨ ベイシー・ストレート・アヘッド
- ⑩ チキン
- ⑪ 銀河鉄道 999
- ⑫ リトルマーメイドメドレー
- ⑬ ミシェル・ルグランメドレー
- ⑭ バードランド
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル A I (同族)
担当講師名	福島弘和 増田博之 東條あずさ 芳賀傑
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽、ジャズ、劇伴、スタジオ録音、TV 収録など多岐に渡る現場での活動を経て様々なジャンルの実演、編曲経験を持ちます。
アンサンブルや吹奏楽の分野においても作編曲作品を国内外で多数出版しており、実際の現場でもプロフェッショナル、アマチュア問わず多くの演奏家に作品提供をし、実演されている経験を持ちます。

授業内容

楽譜の基本的な書き方や編曲法 (コード理論、オブリガードの書き方など)を学びます。
授業ごとに生徒自身で編曲した楽譜の音出しを行い、各楽器の音域やパートの役割が適切か、移調やアーティキュレーション等の記譜法が適切か、編曲のアイデアや創意工夫があるかどうかなどを、講師だけでなく生徒同士でも積極的にディスカッションを行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基本的な楽譜の書き方やコード理論を習得し、楽器編成に合わせた簡単なアンサンブルの譜面を作成出来る事を目標としています。
また、編曲をすることを通して、世の中に流通している様々な楽譜や音楽のメロディやリズムの要素、パートの役割やスコアリングなどを敏感にキャッチ出来る様に指導を行います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ガイダンス: 年間の授業内容や到達目標、評価方法などの説明をします。
- ②基本的な楽譜の書き方や移調などの確認をします。
- ③各楽器の適正な音域や音域ごとの音色、効果を実際の楽曲から勉強をします。
- ④コード理論 I : ダイアトニックのスケールとコードのしくみを勉強します。
- ⑤コード理論 II : ダイアトニックのコード進行を実際の楽曲から研究します。
- ⑥簡単なアンサンブル譜面の作成をします。
- ⑦試験: 実施した簡単な編曲作品の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の発表を授業内にて行います。

出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。

曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

授業計画（8回目から15回目）

⑧既存のメロディに対するコード付けの練習をします。

⑨既存のメロディに対するリズム伴奏パターンを実際の楽曲を参考にしつつ作成します。

⑩既存のメロディに対するベースラインとオブリガードを実際の楽曲を参考にしつつ作成します。

⑪発表に向けて①：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑫発表に向けて②：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑬発表に向けて③：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑭発表に向けて④：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑮発表会：合同発表会

期末試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の合同発表会を行います。

出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。

曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル A II (同族)
担当講師名	福島弘和 増田博之 東條あずさ 芳賀傑
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽、ジャズ、劇伴、スタジオ録音、TV 収録など多岐に渡る現場での活動を経て様々なジャンルの実演、編曲経験を持ちます。
アンサンブルや吹奏楽の分野においても作編曲作品を国内外で多数出版しており、実際の現場でもプロフェッショナル、アマチュア問わず多くの演奏家に作品提供をし、実演されている経験を持ちます。

授業内容

楽譜の基本的な書き方や編曲法 (コード理論、オブリガードの書き方など)を学びます。
授業ごとに生徒自身で編曲した楽譜の音出しを行い、各楽器の音域やパートの役割が適切か、移調やアーティキュレーション等の記譜法が適切か、編曲のアイデアや創意工夫があるかどうかなどを、講師だけでなく生徒同士でも積極的にディスカッションを行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

コード理論やオブリガードの書き方などの編曲法を習得し、楽器編成に合わせた高度なアンサンブルの譜面を作成出来る事を目標としています。
また、編曲をすることを通して、世の中に流通している様々な楽譜や音楽のメロディやリズムの要素、パートの役割やスコアリングなどを敏感にキャッチ出来る様に指導を行います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①コード理論 III : セカンダリードミナントについて実際の楽曲から勉強をします。
- ②コード理論 IV : 7th などのテンションコードについて実際の楽曲から勉強をします。
- ③コード理論 V : デイミニッシュコードやオーギュメントコードなどについて実際の楽曲から勉強をします。
- ④クォーター末発表会に向けての曲ぎめや構成、アレンジを固めます。
- ⑤発表に向けて① : 発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑥発表に向けて② : 発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑦発表会 : 実施した編曲作品の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の発表を授業内にて行います。
出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。
曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧オリジナルアレンジ制作①：I~III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑨オリジナルアレンジ制作②：I~III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑩オリジナルアレンジ制作③：I~III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑪発表に向けて①：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑫発表に向けて②：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑬発表に向けて③：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑭発表に向けて④：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑮発表会：合同発表会

期末試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の合同発表会を行います。
出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。
曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル B I (ポップス)
担当講師名	宮崎 明生
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

総合表現制作実習や各コース、学科の「ライブ」の機会に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 自己紹介&ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: I Can't Turn You Loose)
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: My Mama Told Me So)
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: Samba Do Marcos)
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: Canptain Caribe)
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: You make me feel brand new)
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。(暗譜推奨です!) 勢いの

有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Carnaval）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Get it on）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Getaway）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：La Yellow Head）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Bobs Jazz）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：雪の華）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

曲目は前年度までの例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル BII (ポップス)
担当講師名	宮崎 明生
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

総合表現制作実習や各コース、学科の「ライブ」の機会に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：水色の雨)
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：ロッキーのテーマ)
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：マッカーサーパーク)
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：Copernicus)
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：Freedom At Midnight)
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。(暗譜推奨です!) 勢いの

有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：I want you back）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：5匹の子ブタとチャールストン）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Antigua Boy）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Sined sealed）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：You are everything）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Brazil）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

曲目は前年度までの例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	管弦打楽器指導法Ⅰ
担当講師名	佐藤正人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

管打楽器指導法は、吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器の知識と指導法を学ぶ。中・高校生への指導を前提に、楽器の基本的理論と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着ける。

授業内容

演奏家・教育者、指導者として必要な理論と知識を総合的に考察、管弦打楽器についての機能及びその指導法を学ぶ。中高生への指導を想定し、必要な合奏指導を適切な順序で指導を行い、現場で求められる指導力を実践的に身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の知識と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着け、将来求められる指導力を、実践を通して身につけることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 各楽器の指導法について。指導者としての心構え
- ② 木管楽器の指導①フルートの指導 ※吹奏楽の楽器編成
- ③ 木管楽器の指導②クラリネットの指導
- ④ 木管楽器の指導③サクソフォーンの指導
- ⑤ 木管楽器の指導④サクソフォーンの指導（サクソルン属の解説）
- ⑥ 木管楽器の指導⑤オーボエ、バスーン編
- ⑦ アンサンブル指導と室内楽

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、授業内で実際の指導と発表を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。指導発表と確認テスト（80%）平常（20%）で総合的に評価。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 金管楽器の指導①トランペットの楽器の知識
- ⑨ 金管楽器の指導②トランペット・ホルネットの指導と実践
- ⑩ 金管楽器の指導②ホルンの指導 ※金管楽器の室内楽
- ⑪ 吹奏楽編成で使用される楽器 1：名称や調性の他、音域や特性等の構造を理解
- ⑫ 金管楽器の指導③トロンボーンの指導
- ⑬ 金管楽器の指導④ユーフォニアムの指導の他、音域や特性等の構造を理解
- ⑭ 楽器指導法のまとめ（ディスカッションを通し、課題を共有）

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や発表（出席率含）に加え、理解度を加味して評価。また、理解や学習内容を深める評価は、各楽器の知識の発表及び合奏指導の事前準備等を総合的に評価。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	管弦打楽器指導法Ⅱ
担当講師名	佐藤正人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

管打楽器指導法は、吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器の知識と指導法を学ぶ。中・高校生への指導を前提に、楽器の基本的理論と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着ける。

授業内容

演奏家・教育者、吹奏楽指導者として必要な理論と知識を総合的に考察、管弦打楽器についての機能及びその指導法を学ぶ。中高生への指導を想定し、必要な合奏指導を適切な順序で指導を行い、現場で求められる指導力を実践的に身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各楽器の知識（歴史、同属楽器、構造、奏法、メンテナンス、レパートリー）と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着け、将来求められる指導力を、実践を通して身につけることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①フルート1：基礎知識の理解、楽器の組み立て、頭部管の発音
- ②フルート2：同属楽器について、構え方、運指
- ③フルート3：タンギングと倍音を取り入れた、簡単なメロディーの演奏
- ④クラリネット1：基礎知識の理解、楽器の組み立て、マウスピースとバレルの発音
- ⑤クラリネット2：同属楽器について、構え方、運指
- ⑥クラリネット3：タンギングとレジスターキーを使用した、簡単なメロディーの演奏
- ⑦理解度確認（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、授業内で実際の指導と発表を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。指導発表と確認テスト（80%）平常（20%）で総合的に評価。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧吹奏楽の楽器とアンサンブル指導（同属楽器、混合編成）
- ⑨打楽器の指導①太鼓（膜鳴楽器）吹奏楽・オーケストラの打楽器について
- ⑩打楽器の指導②鍵盤打楽器、ラテン楽器、アンサンブル体験
- ⑪楽器の知識：ハープについてについて
- ⑫楽器の知識：コントラバス（弦楽器）について
- ⑬合奏指導の基礎：吹奏楽の楽器編成と編曲の基礎知識
- ⑭吹奏楽指導の知識：吹奏楽のレパートリー研究
- ⑮吹奏楽指導 確認問題実施

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や意欲（出席率含）に加え、吹奏楽検定 3 級の合否を加味して評価します。意欲における評価は、授業開始時に行う前週の確認や授業内の質疑応答を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダード・マーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいく上での課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 3 : フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 4 : まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20 世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品 5 : 前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー 1 : 曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー 2 : バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー 3 : フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅲ
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をを目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6：少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1：伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2：独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1：曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2：コンサート全体のまとめ
- ⑮ 総合的なレパートリー 3：ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽IV
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者をめざすものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況进行评估する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽基礎指導実習 I
担当講師名	高梨裕久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽やマーチング編成で豊富な合奏経験をもつバンドディレクターで、日本管打・吹奏楽学会吹奏楽検定委員としての研究や啓蒙活動の経験を持ちます。

授業内容

この科目では、吹奏楽指導者は何をすべきか、基礎合奏メソッド、楽曲を用い、指揮台で実践します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

指導現場で起こる様々な状況に臨機応変に対応するために、合奏テクニック(トレーニング)、知識を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①基礎合奏メソッド、ベーシックレパートリーの確認と、合奏担当曲目決め
- ②「JBC バンドスタディ」1/「ロマネスク/J. スウェアリンジェン」
- ③「JBC バンドスタディ」2/「管打楽器のための祝典/J. スウェアリンジェン」1
- ④「JBC バンドスタディ」3/「管打楽器のための祝典/J. スウェアリンジェン」2
- ⑤「JBC バンドスタディ」4/「管打楽器のための祝典/J. スウェアリンジェン」3まとめ
- ⑥「JBC バンドスタディ」5/「ロンドンデリーの歌/アイルランド民謡」
- ⑦「JBC バンドスタディ」6/「バンドのための民話/J. A. コーディル」1

中間試験評価方法・評価基準

評価は、出席率を重視し、合奏実習の取組(準備・内容)も評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「3D バンドスタディ」1/「バンドのための民話/J. A. コーディル」2
- ⑨「3D バンドスタディ」2/「バンドのための民話/J. A. コーディル」3
- ⑩「3D バンドスタディ」3/「バンドのための民話/J. A. コーディル」4まとめ

- ⑪ 「3D バンドスタディ」 4 / 「主よ、人の望みの喜びよ / J. S. バッハ」
- ⑫ 「トレジャリー・オブ・スケール」 1 / 「バラの謝肉祭 / J. オリヴァードーティ」 1
- ⑬ 「トレジャリー・オブ・スケール」 2 / 「バラの謝肉祭 / J. オリヴァードーティ」 2
- ⑭ 「トレジャリー・オブ・スケール」 3 / 「バラの謝肉祭 / J. オリヴァードーティ」 3
- ⑮ 「トレジャリー・オブ・スケール」 4 / 「バラの謝肉祭 / J. オリヴァードーティ」 4 まとめ

期末試験評価方法・評価基準

評価は、出席率を重視し、合奏実習の取組(準備・内容)も評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽基礎指導実習Ⅱ
担当講師名	高梨裕久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽やマーチング編成で豊富な合奏経験をもつバンドディレクターで、日本管打・吹奏楽学会吹奏楽検定委員としての研究や啓蒙活動の経験を持ちます。

授業内容

この科目では、吹奏楽指導者は何をすべきか、オリジナル楽曲と行進曲を用い、指揮台で実践します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

指導現場で起こる様々な状況に臨機応変に対応するために、合奏テクニック(トレーニング)、知識を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「オリンピック・マーチ／古閑裕而」
- ②「シンコペテッド・マーチ『明日に向かって』／岩井直溥」
- ③「海を越えた握手／J.P. スーザ」
- ④「第一組曲より『IV. ギャロップ』／A. リード」
- ⑤「旧友／C. タイケ」
- ⑥「双頭の鷲の旗の下に／J.F. ワーグナー」
- ⑦「アーセナル／J. v. d. ロースト」

中間試験評価方法・評価基準

評価は、出席率を重視し、合奏実習の取組(準備・内容)も評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「第一組曲より『I. シャコンヌ』／G. ホルスト」1
- ⑨「第一組曲より『I. シャコンヌ』／G. ホルスト」2
- ⑩「第一組曲より『II. インテルメッツォ』／G. ホルスト」1

- ⑪「第一組曲より『Ⅱ. インテルメッツォ』／G.ホルスト」2
- ⑫「第一組曲より『Ⅲ. マーチ』／G.ホルスト」1
- ⑬「第一組曲より『Ⅲ. マーチ』／G.ホルスト」1
- ⑭「第一組曲／G.ホルスト」まとめ1
- ⑮「第一組曲／G.ホルスト」まとめ2

期末試験評価方法・評価基準

評価は、出席率を重視し、合奏実習の取組(準備・内容)も評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ミュージックビジネス研修 I
担当講師名	高梨裕久
学期	春
授業の形態	演習（特別講座・集中）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

この科目では、学外で開催されるイベントへ参加します。指導者講習会の参加、楽器博物館・楽器製作工場見学等を予定しています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各専門分野の講座へ参加し、さまざまな指導法を身に付けます。楽器博物館や製作工場を見学では報告書としてレポートにまとめる力も身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

イベントへの参加、準備、レポート内容等、個々の成果を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫

⑬

⑭

⑮

期末試験評価方法・評価基準

イベントへの参加、準備、レポート内容等、個々の成果を評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ミュージックビジネス研修Ⅱ
担当講師名	高梨裕久
学期	秋
授業の形態	演習（特別講座・集中）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

この科目では、学外で開催されるイベントへ参加します。イベント運営、公務員音楽隊の活動見学等を予定しています。当日の参加だけでなく、それに向けた準備や催事後のレポート報告までを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

イベント運営において、準備段階から当日運営までのノウハウを身に付けます。公務員音楽隊の活動見学は、仕事や就職への意識付け、仕事としての音楽活動の理解をします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

イベントへの参加、準備、レポート内容等、個々の成果を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

イベントへの参加、準備、レポート内容等、個々の成果を評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽指導法研究 I
担当講師名	佐藤正人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

一年次の「吹奏楽概論」に続く各楽器（木管・金管・打楽器）の特性についての知識を学びます。また、講師の実務経験（教員、バンドディレクター、アレンジャー）を踏まえ、吹奏楽団体の運営や少子化に合わせたアレンジ等、様々な角度から学んでいきます。

授業内容

各専攻楽器以外に、知識や練習方法論を幅広く、正確に理解しているかを身に付けて行きます。またそれらが合奏体となった際に必要とされるテクニックを習得して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器指導と吹奏楽指導を中・高校生への指導を前提に、分かりやすく指導できる実践力を身に付け、合奏指導を通して、将来求められる指導力を、実践を通して身につけることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス；吹奏楽指導法について、指導者としての心構え。
- ②木管楽器の指導①サクソフォーンの指導（サクソルン属の解説）
- ③木管楽器の指導①フルートの指導 ※吹奏楽の楽器編成
- ④木管楽器の指導④オーボエ、バスーン編 ※木管楽器の室内楽
- ⑤金管楽器の指導①トランペット・ホルネットの指導
- ⑥金管楽器の指導②ホルンの指導 ※金管楽器の室内楽
- ⑦理解度確認（吹奏楽指導者検定3級 確認試験実施）

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 60%・試験内容および理解度 40%とします。
評価内容は、出席率を過半数に試験結果と毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として、評価対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧金管楽器の指導③トロンボーンの指導
- ⑨金管楽器の指導④ユーフォニアム、チューバの指導
- ⑩楽器の知識：ハープについて、コントラバス（弦楽器）について
- ⑪打楽器の指導①太鼓系（膜鳴楽器）吹奏楽の打楽器、マーチング打楽器について
- ⑫打楽器の指導②鍵盤打楽器（体鳴楽器）様々な打楽器（小物楽器含）
- ⑬打楽器の指導③ラテン楽器、ドラムス、アンサンブル体験
- ⑭吹奏楽の楽器とアンサンブル指導（同属楽器、混合編成）
- ⑮理解度確認：楽器指導法のまとめ（ディスカッションを通し、課題を共有）

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 70%・試験内容および取組を 30%とします。
評価内容は、出席率を過半数に試験結果と毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として、また後半の合奏では取組姿勢を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽指導法研究Ⅱ
担当講師名	佐藤正人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

吹奏楽指導や教育現場において楽器奏法と合奏指導法を学ぶ。講師の実務経験（教員、バンドディレクター、アレンジャー）を踏まえ、吹奏楽団体の運営や少子化に合わせたアレンジ等、様々な角度から学び、中・高校生への指導を前提に、楽器の基本的理論と奏法を分かりやすく指導できる実践力を身に着ける。

授業内容

吹奏楽指導法研究は、吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器の知識と吹奏楽指導法を学習する。中・高校生への指導を前提に分かりやすく指導できる実践力を身に着け、必要な合奏指導を適切な順序で指導を行い、現場で求められる指導力を実践的に身につける。更に合奏指導により、実践的な指導力と基本的な指揮法を身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽指導や教育現場において必要な楽器指導と吹奏楽指導力を身に着けることができる。また将来求められる指導力を、合奏指導の実践を通して身につけることができる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス：指揮台に立つ前の準備。合奏指導について
- ② 合奏指導法：スコア研究とリハーサル計画の立案、指揮法の確認
- ③ 合奏指導の基礎①吹奏楽の楽器編成とスコアリーダー
- ④ 合奏指導の基礎②合奏基礎トレーニング（バンドメソッド活用）
- ⑤ 合奏指導の基礎③合奏基礎練習（コラール&小編成作品）
- ⑥ 吹奏楽指導の知識①フレックス編成の指導
- ⑦ 吹奏楽指導の知識②アンサンブル指導の実践

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、授業内で実際の指導と発表を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。指導発表と確認テスト（80%）平常（20%）で総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 吹奏楽指導の知識③吹奏楽の歴史とレパートリー、編成の変遷
- ⑨ 吹奏楽指導の知識④演奏会を開くまで（演奏会企画、成果発表）
- ⑩ 吹奏楽指導の知識⑤編曲の基礎知識（演奏会企画、成果発表）
- ⑪ 合奏指導の実際：リハーサルテクニック実践①マーチの指導法
- ⑫ 合奏指導の実際：リハーサルテクニック実践②オリジナル作品（小編成）
- ⑬ 成果発表：ディスカッション
- ⑭ 吹奏楽指導者検定実技試験（合奏指導と指揮法の基礎）

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、授業内で実際の指導と発表を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。指導発表と確認テスト（80%）平常（20%）で総合的に評価

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチング指導法研究 I
担当講師名	生乃久法
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	吹奏楽・マーチング専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校～官公庁バンドまでの指導経験を持ちます。

授業内容

マーチングバンドの活動・教育的意義、基本から応用動作等、またパソコンを使用したコンテ作成を年間通して学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一般社団法人日本マーチングバンド指導者協会 2 級ライセンスの取得。
様々な形態に対応する指導が出来る様、技術・知識を習得する。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- | | |
|------------|------------------------|
| ①導入、基本動作① | 授業内容の説明など、基本動作を学ぶ |
| ②基本動作② | T 字の取得と効果的な練習方法 |
| ③コンビネーション① | ピンフィール・トリックスピン・フォロージャー |
| ④コンビネーション② | ピンフィールセンター・オブリーク・クロス |
| ⑤ドラムメジャー① | メジャーバトンの基本操作方法 |
| ⑥ドラムメジャー② | パレードイング時のサイン |
| ⑦指導法研究 | マーチングの指導法について |

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が表れているか。またマーチングに対し広い考えを持っているか。それが成果として現れたかを評価の対象とします。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- | | |
|--------------|---------------|
| ⑧指導法研究② | マーチングの指導法について |
| ⑨ペーパートレーニング① | 2 級ライセンス受験の心得 |

- ⑩ペーパートレーニング② 2級ライセンス受験にあたり、試験内容の確認
⑪2級ライセンス検定 2級ライセンス検定実施
⑫指導案作成① 基本動作講習の指導の組み立て、指導案作成
⑬指導実践① 指導案を基に指導の実践を行う
⑭指導実践② 指導案を基に指導の実践を行う
⑮指導法検定① 基本動作の指導を発表する

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が表れているか。またマーチングに対し広い考えを持っているか。それが成果として現れたかを評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチング指導法研究Ⅱ
担当講師名	生乃久法
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	吹奏楽・マーチング専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校～官公庁バンドまでの指導経験を持ちます。

授業内容

マーチングバンドの活動・教育的意義、基本から応用動作等、またパソコンを使用したコンテ作成を年間通して学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な形態に対応する指導が出来る様、技術・知識を習得する。
ショーの企画や構成、演習についてドリルデザインソフトを使用しながら習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①企画・構成① ショーの企画構成について
- ②企画・構成② ショーの企画構成について
- ③企画・構成③ ショーの企画構成について
- ④企画・構成④ ショーの企画構成について
- ⑤企画・構成⑤ ショーの企画構成について
- ⑥企画・構成⑥ ショーの企画構成について
- ⑦指導案作成② 作成したショーの企画構成をもとに指導案の作成

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が表れているか。またマーチングに対し広い考えを持っているか。それが成果として現れたかを評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧構成と演出① ショーの構成と演出について
- ⑨構成と演出② ショーの構成と演出について

- ⑩構成と演出③ ショーの構成と演出について
- ⑪構成と演習④ ショーの構成と演出について
- ⑫指導実践③ 指導案を基に指導の実践を行う
- ⑬指導実践④ 指導案を基に指導の実践を行う
- ⑭指導実践⑤ 指導案を基に指導の実践を行う
- ⑮指導法検定② 基本動作の指導を発表する

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が表れているか。またマーチングに対し広い考えを持ってしているか。それが成果として現れたかを評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	パフォーマンスバンドⅢ
担当講師名	石田修一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は教育者、吹奏楽指導者、コーディネーターとして経験豊富な実務経験を持ちます。

授業内容

合奏やアンサンブルテクニック、スクールバンドの指導や教育について学びます。発表会では、多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究や、歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽における合奏能力（チューニング、リズム、ハーモニートレーニング）、アンサンブルテクニックを身に付けます。また、音楽家としての必要なコーディネート力、柔軟な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション
- ②基礎合奏・チューニング・バランス・ハーモニー/サウンドトレーニング
- ③基礎合奏・コラール/サウンドの調和（ブレンド）
- ④基礎合奏・コラール・楽曲初見/音価、リズム、ハーモニーの統一
- ⑤基礎合奏・コラール・楽曲練習/ユニゾン統一、リズム処理、ハーモニー解釈・役割 等
- ⑥基礎合奏・コラール・楽曲練習/音色、バランス、テンポ、フレージング統一 等
- ⑦基礎合奏・コラール・楽曲練習/ダイナミクス、バランス、音程、音形、ハーモニー 等

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は合奏能力の習得、吹奏楽のサウンド作りの理解、基礎合奏から楽曲演奏へ発展することが出来ているか、を評価対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧基礎合奏・コーラル・楽曲練習／音色の変化、コントラスト、速度変化 等
- ⑨楽曲・演技／速度設定、ニュアンス、アゴーギグ、振付の基本 等
- ⑩楽曲・演技／セクション間のアンサンブル、楽曲の振付・演技 等
- ⑪楽曲・演技／全体アンサンブル、様式感、楽曲への振付・演技 等
- ⑫総合リハーサル／細部の仕上げ
- ⑬総合リハーサル／演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合性
- ⑭総合リハーサル／通し練習、総合リハーサル
- ⑮本番

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は吹奏楽のサウンド作りの理解、アンサンブル能力、音楽に合わせた視覚効果の理解とその取組、を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	パフォーマンスバンドⅣ
担当講師名	石田修一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は教育者、吹奏楽指導者、コーディネーターとして経験豊富な実務経験を持ちます。

授業内容

合奏やアンサンブルテクニック、スクールバンドの指導や教育について学びます。発表会では、多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究や、歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽における合奏能力（チューニング、リズム、ハーモニートレーニング）、アンサンブルテクニックを身に付けます。また、音楽家としての必要なコーディネート力、柔軟な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション／春学期本番の反省・確認、秋学期の本番へ向けて
- ②楽曲初見／本番の楽曲考案
- ③楽曲譜読み／本番の楽曲考案
- ④楽曲・構成／本番の構成考案
- ⑤楽曲・構成／本番の構成考案
- ⑥楽曲暗譜
- ⑦楽曲暗譜

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では 1,2 クォーターで身に付けた基礎力を基にし、レパートリーの習得・拡張が身に付いたかを評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽曲暗譜・振付
- ⑨楽曲暗譜・振付
- ⑩総合リハーサル／ヴォーカル、ダンス、語り、照明合わせ
- ⑪総合リハーサル／ヴォーカル、ダンス、語り、照明合わせ
- ⑫総合リハーサル／ヴォーカル、ダンス、語り、照明合わせ
- ⑬総合リハーサル／演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合性
- ⑭総合リハーサル／通し練習、総合リハーサル
- ⑮本番

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では一年間身に付けた演奏力・演技力を、表現者として聴衆へとアピールすることを評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングバンドⅢ
担当講師名	生乃久法
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校～官公庁バンドまでの指導経験を持ちます。

授業内容

マーチングバンドとして、本番を迎えるまでの過程を体験し、その技術を習得します。それぞれの係り分担を決め、バンド運営、バンド指導のポイントを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マーチングの基本的な技術を身につけ表現できるようにします。またフォーメーション作成、ショー構成のポイントについて学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入～オリエンテーション／スタッフ決め、組織づくり
- ② 基礎トレーニングⅠ／基本動作トレーニング（静止間動作）
- ③ 基礎トレーニングⅡ／基本動作トレーニング（行進間動作）
- ④ 基礎トレーニングⅢ／デイリートレーニングについて
- ⑤ フォーメーション練習Ⅰ／コンテ組み
- ⑥ フォーメーション練習Ⅱ／フォーメーションを整える方法について
- ⑦ フォーメーション練習Ⅲ／楽器を持つての動きの練習

中間試験評価方法・評価基準

授業内評価とします。マーチングバンドの中での自分の役割を理解し、バンドに貢献しようとしているか、積極的に参加しようとしているかを評価します。

出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏Ⅰ／マーチングバンドにおける合奏のポイントを学びます。

- ⑨ 合奏Ⅱ／マーチングバンドにおける合奏のポイントを学びます。
- ⑩ 合奏Ⅲ／マーチングバンドにおける合奏のポイントを学びます。
- ⑪ リハーサルテクニックⅠ／動きながらの合奏、フォーメーションの修正など。
- ⑫ リハーサルテクニックⅡ／動きながらの合奏、フォーメーションの修正など。
- ⑬ リハーサルテクニックⅢ／動きながらの合奏、フォーメーションの修正など。
- ⑭ 授業内発表に向けて／仕上げ、まとめ
- ⑮ 授業内発表／授業内での本番を行います。

期末試験評価方法・評価基準

授業内発表を試験とします。自分の与えられた役割を責任持ってこなしているか、バンドに貢献できているかを評価のポイントとします。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングバンドⅣ
担当講師名	生乃久法
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校～官公庁バンドまでの指導経験を持ちます。

授業内容

BAND FESTIVAL に向けて、マーチングのトレーニング方法、コンテの作成方法、ショウの構成について学び、実践を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マーチングの基本的技術の習得、及びコンテの作成（希望者）

授業計画（1回目から7回目）

- ① ショウ構成について/選曲、メンバー決めなど
- ② 基礎トレーニングⅠ/マーチングに必要なデイリートレーニングの実践
- ③ 基礎トレーニングⅡ/マーチングに必要なデイリートレーニングの実践
- ④ フォーメーション実践Ⅰ/自分たちで作成したコンテをメンバーに動いてもらい、修正、変更等を行います。
- ⑤ フォーメーション実践Ⅱ/自分たちで作成したコンテをメンバーに動いてもらい、修正、変更等を行います。
- ⑥ フォーメーション実践Ⅲ/ラインを揃える、演出の追加等を行います。
- ⑦ フォーメーション実践Ⅳ/ラインを揃える、演出の追加等を行います。

中間試験評価方法・評価基準

授業内評価とします。自分の役割をこなそうとしているか、授業に参加しようとしているかを評価します。

出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏トレーニングⅠ／マーチングバンドでの合奏トレーニング
- ⑨ 合奏トレーニングⅡ／マーチングバンドでの合奏トレーニング
- ⑩ ステージドリル本番に向けてⅠ／演奏をしながら動きのトレーニングを行います。
- ⑪ ステージドリル本番に向けてⅡ／演奏をしながら動きのトレーニングを行います。
- ⑫ ステージドリル本番に向けてⅢ／演奏をしながら動きのトレーニングを行います。
- ⑬ ゲネプロ／全体の流れの確認、照明の確認等、本番に向けての仕上げを行います。
- ⑭ **BAND FESTIVAL** 本番
- ⑮ 反省、まとめ／本番の映像を鑑賞し、ふりかえりを行う。また係の仕事内容の見直しと次年度への引き継ぎ等を行う。

期末試験評価方法・評価基準

BAND FESTIVAL 本番を試験とします。**BAND FESTIVAL** に向けて自分の役割を積極的にかつ責任を持ってこなそうとしているか評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングパーカッションⅢ
担当講師名	生乃久法
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校から官公庁バンドにおけるマーチング指導、マーチングパーカッション指導及び、吹奏楽指導に携わる。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演奏演技のグループレッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演奏技術向上、パートとしての演奏の統一の他、伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入：個々の技術・知識の確認／面談や「打楽器教則本」等のメソッドを用い、現状の把握
- ② 基本奏法①／ソロ□を□ったア□ティキュレ□ションのトレ□ニング
- ③ 基本奏法②／デュエット□を□ったア□ティキュレ□ションのトレ□ニング
- ④ 基本奏法③／教則本を使ったソロ曲発表
- ⑤ 基本奏法④／アレンジ法1
- ⑥ 基本奏法⑤／アレンジ法2
- ⑦ 試験／基本奏法①～⑤の確認

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。また正しい奏法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。（出席 60%、授業内評価 40%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 基本奏法⑥／アンサンブル曲発表説明

- ⑨ 基本奏法⑦／アンサンブル練習 1
- ⑩ 基本奏法⑧／アンサンブル練習 2
- ⑪ 総合／アンサンブル練習 3
- ⑫ 授業内発表会／本番までのゲネプロ・運営の実践
- ⑬ BAND FESTIVAL へ向けて①／BAND FESTIVAL へ向けてのトレーニング&ミーティング
- ⑭ BAND FESTIVAL へ向けて②／ショーのまとめ
- ⑮ BAND FESTIVAL／本番

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。（出席 60%、授業内評価 40%）

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングパーカッションⅣ
担当講師名	生乃久法
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校から官公庁バンドにおけるマーチング指導、マーチングパーカッション指導及び、吹奏楽指導に携わる。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演奏演技のグループレッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演奏技術向上、パートとしての演奏の統一の他、伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① BAND FESTIVAL 反省／反省および、WINTER BAND FESTIVAL への話し合い
- ② 応用奏法①／吹奏楽打楽器奏法
- ③ 応用奏法②／鍵盤アンサンブル1
- ④ 応用奏法③／鍵盤アンサンブル2
- ⑤ 応用奏法④／マーチング楽器のアンサンブル（ドラムマーチ1）
- ⑥ 応用奏法⑤／マーチング楽器のアンサンブル（ドラムマーチ2）
- ⑦ 試験／応用奏法①～⑤の確認

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。また正しい奏法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。（出席90%、授業内評価10%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 応用奏法⑥／ソロ曲、デュエット曲
- ⑨ 応用奏法⑦／ソロ曲、デュエット曲

- ⑩ 応用奏法⑧／ソロ曲、デュエット曲
- ⑪ BAND FESTIVAL へ向けて①／アンサンブル練習 4
- ⑫ BAND FESTIVAL へ向けて②／アンサンブル練習 5
- ⑬ BAND FESTIVAL へ向けて③／アンサンブル練習 6
- ⑭ WINTER BAND FESTIVAL／本番
- ⑮ 反省／映像の鑑賞、スタッフごとの反省、他意見交換

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。（出席 90%、授業内評価 10%）

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	カラーガードⅢ
担当講師名	栗原香織
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はマーチングバンドやカラーガードのショー作成、スクールバンドや公務員音楽隊のパフォーマンス指導等の経験を持ちます。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演技レッスンをを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演技技術の向上、パートとしての統一の他、指導者観点から伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①面談や基本操法等を用い、身に付いている技術・知識の確認、現状の把握を行います。
- ②基本操法1：フロント・ランス、ドロップ・スピン 他
- ③基本操法2：カービング、ウエスト・ロール 他
- ④基本操法3：エクステンション各種類
- ⑤基本操法4：コンビネーションⅠ
- ⑥基本操法5：コンビネーションⅠ
- ⑦基本操法1～5の確認を行います。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
また正しい操法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。
(出席 90%、授業内評価 10%)

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧基本操法6：ダブルフラッグ各種操法

- ⑨基本操法7：ボディワーク(ダンス)
- ⑩基本操法8：コンビネーションII
- ⑪基本操法6～8の確認を行います。
- ⑫授業内発表会（本番までのゲネプロ・運営の実践）
- ⑬BAND FESTIVAL へ向けて1（BAND FESTIVAL へ向けてのトレーニング&ミーティング）
- ⑭BAND FESTIVAL へ向けて2（ショーのまとめ）
- ⑮BAND FESTIVAL 本番

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。
(出席 90%、授業内評価 10%)

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	カラーガードⅣ
担当講師名	栗原香織
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はマーチングバンドやカラーガードのショー作成、スクールバンドや公務員音楽隊のパフォーマンス指導等の経験を持ちます。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演技レッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演技技術の向上、パートとしての統一の他、指導者観点から伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①BAND FESTIVAL の反省および、WINTER BAND FESTIVAL への話し合いを行います。
- ②応用操法1：レギュラートス 他
- ③応用操法2：コンビネーションⅢ
- ④布地の見本を用い、コスチュームデザインの実習を行います。
- ⑤応用操法3：振付創作の実習を行います。
- ⑥応用操法4：振付創作の実習を行います。
- ⑦応用操法1～4の確認を行います。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
また正しい操法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。
（出席 90%、授業内評価 10%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧応用操法5：リスト・ローテーション（フォワード／リバース） 他

- ⑨応用操法6：フラット・トス 他
- ⑩応用操法7：コンビネーションⅣ
- ⑪WINTER BAND FESTIVAL へ向けて1 (BAND FESTIVAL へのトレーニング&ミーティング)
- ⑫WINTER BAND FESTIVAL へ向けて2 (ショーのまとめ)
- ⑬WINTER BAND FESTIVAL へ向けて3 (照明合わせを含む総合リハーサル)
- ⑭WINTER BAND FESTIVAL 本番
- ⑮WINTER BAND FESTIVAL の反省を行います。(映像鑑賞、スタッフ反省、意見交換)

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。
(出席 90%、授業内評価 10%)

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏Ⅲ
担当講師名	織田浩司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/オーメンズ・オブ・ラヴ
- ② 宝島
- ③ となりのトトロ
- ④ ディスコキッド
- ⑤ 君の瞳に恋してる
- ⑥ ミッキーマウスマーチ
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アラジンメドレー
- ⑨ スウィングしなけりゃ意味が無い

- ⑩ イン・ザ・ムード
- ⑪ ゲッタウェイ
- ⑫ 人生のメリーゴーランド
- ⑬ キルビルのテーマ
- ⑭ ライオンキングメドレー
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価致します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏IV
担当講師名	織田浩司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。
毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セレブレーション
- ② すべてをあなたに
- ③ 東京ディズニーリゾートメドレー
- ④ ドラえもん JAZZ
- ⑤ DANCIN'会津磐梯山
- ⑥ デイトリッパー
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クリスマスメドレー

- ⑨ ベイシー・ストレート・アヘッド
- ⑩ チキン
- ⑪ 銀河鉄道 999
- ⑫ リトルマーメイドメドレー
- ⑬ ミシェル・ルグランメドレー
- ⑭ バードランド
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価委します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル A I (同族)
担当講師名	福島弘和 増田博之 東條あずさ 芳賀傑
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽、ジャズ、劇伴、スタジオ録音、TV 収録など多岐に渡る現場での活動を経て様々なジャンルの実演、編曲経験を持ちます。
アンサンブルや吹奏楽の分野においても作編曲作品を国内外で多数出版しており、実際の現場でもプロフェッショナル、アマチュア問わず多くの演奏家に作品提供をし、実演されている経験を持ちます。

授業内容

楽譜の基本的な書き方や編曲法 (コード理論、オブリガードの書き方など)を学びます。
授業ごとに生徒自身で編曲した楽譜の音出しを行い、各楽器の音域やパートの役割が適切か、移調やアーティキュレーション等の記譜法が適切か、編曲のアイデアや創意工夫があるかどうかなどを、講師だけでなく生徒同士でも積極的にディスカッションを行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

基本的な楽譜の書き方やコード理論を習得し、楽器編成に合わせた簡単なアンサンブルの譜面を作成出来る事を目標としています。
また、編曲をすることを通して、世の中に流通している様々な楽譜や音楽のメロディやリズムの要素、パートの役割やスコアリングなどを敏感にキャッチ出来る様に指導を行います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①ガイダンス：年間の授業内容や到達目標、評価方法などの説明をします。
- ②基本的な楽譜の書き方や移調などの確認をします。
- ③各楽器の適正な音域や音域ごとの音色、効果を実際の楽曲から勉強をします。
- ④コード理論Ⅰ：ダイアトニックのスケールとコードのしくみを勉強します。
- ⑤コード理論Ⅱ：ダイアトニックのコード進行を実際の楽曲から研究します。
- ⑥簡単なアンサンブル譜面の作成をします。
- ⑦試験：実施した簡単な編曲作品の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の発表を授業内にて行います。

出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。

曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

授業計画（8回目から15回目）

⑧既存のメロディに対するコード付けの練習をします。

⑨既存のメロディに対するリズム伴奏パターンを実際の楽曲を参考にしつつ作成します。

⑩既存のメロディに対するベースラインとオブリガードを実際の楽曲を参考にしつつ作成します。

⑪発表に向けて①：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑫発表に向けて②：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑬発表に向けて③：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑭発表に向けて④：発表会での演奏曲の仕上げと練習

⑮発表会：合同発表会

期末試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の合同発表会を行います。

出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。

曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル A II (同族)
担当講師名	福島弘和 増田博之 東條あずさ 芳賀傑
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は吹奏楽、ジャズ、劇伴、スタジオ録音、TV 収録など多岐に渡る現場での活動を経て様々なジャンルの実演、編曲経験を持ちます。
アンサンブルや吹奏楽の分野においても作編曲作品を国内外で多数出版しており、実際の現場でもプロフェッショナル、アマチュア問わず多くの演奏家に作品提供をし、実演されている経験を持ちます。

授業内容

楽譜の基本的な書き方や編曲法 (コード理論、オブリガードの書き方など)を学びます。
授業ごとに生徒自身で編曲した楽譜の音出しを行い、各楽器の音域やパートの役割が適切か、移調やアーティキュレーション等の記譜法が適切か、編曲のアイデアや創意工夫があるかどうかなどを、講師だけでなく生徒同士でも積極的にディスカッションを行います。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

コード理論やオブリガードの書き方などの編曲法を習得し、楽器編成に合わせた高度なアンサンブルの譜面を作成出来る事を目標としています。
また、編曲をすることを通して、世の中に流通している様々な楽譜や音楽のメロディやリズムの要素、パートの役割やスコアリングなどを敏感にキャッチ出来る様に指導を行います。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①コード理論 III : セカンダリードミナントについて実際の楽曲から勉強をします。
- ②コード理論 IV : 7th などのテンションコードについて実際の楽曲から勉強をします。
- ③コード理論 V : デイミニッシュコードやオーギュメントコードなどについて実際の楽曲から勉強をします。
- ④クォーター末発表会に向けての曲ぎめや構成、アレンジを固めます。
- ⑤発表に向けて① : 発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑥発表に向けて② : 発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑦発表会 : 実施した編曲作品の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の発表を授業内にて行います。
出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。
曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧オリジナルアレンジ制作①：I~III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑨オリジナルアレンジ制作②：I~III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑩オリジナルアレンジ制作③：I~III クォーターをふまえ、任意に選んだ楽曲のオリジナルアレンジを制作する。
- ⑪発表に向けて①：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑫発表に向けて②：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑬発表に向けて③：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑭発表に向けて④：発表会での演奏曲の仕上げと練習
- ⑮発表会：合同発表会

期末試験評価方法・評価基準

実施した編曲作品の合同発表会を行います。
出席率や授業への取り組む姿勢をはじめ、楽譜の基本的な書き方や曲の完成度等を評価します。
曲の完成度：60% 出席：20% 取り組み：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル B I (ポップス)
担当講師名	宮崎 明生
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

総合表現制作実習や各コース、学科の「ライブ」の機会に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 自己紹介&ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: I Can't Turn You Loose)
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: My Mama Told Me So)
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: Samba Do Marcos)
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: Canptain Caribe)
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例: You make me feel brand new)
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。(暗譜推奨です!) 勢いの

有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Carnaval）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Get it on）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Getaway）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：La Yellow Head）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Bobs Jazz）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：雪の華）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

曲目は前年度までの例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	アンサンブル BⅡ (ポップス)
担当講師名	宮崎 明生
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。学生からの曲リクエストも随時受け付けます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

総合表現制作実習や各コース、学科の「ライブ」の機会に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画 (1回目から7回目)

- ① ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：水色の雨)
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：ロッキーのテーマ)
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：マッカーサーパーク)
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：Copernicus)
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏 (例：Freedom At Midnight)
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。(暗譜推奨です!) 勢いの

有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：I want you back）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：5匹の子ブタとチャールストン）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Antigua Boy）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Sined sealed）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：You are everything）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Brazil）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

曲目は前年度までの例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	プレゼンテーションⅢ
担当講師名	大山智、高梨裕久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管弦打楽器専攻、吹奏楽・マーチング専攻

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

社会に出るために必要な能力、知識の習得を目指し、学習します。
また、演奏においても通常の授業から学んだことをどう活かしていくかを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の考えを効果的に伝えることができるようになる。
授業（知識）を演奏が結びつくようになる

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業概要の説明
- ② 目標設定
- ③ 社会人教育① マナー、コミュニケーション能力について
- ④ 社会人教育② MC リテラシー
- ⑤ 社会人教育③ プレゼンテーション能力について
- ⑥ 社会人教育④ マネジメント能力について
- ⑦ レポート レポート提出

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。
出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 目標設定
- ⑨ 専攻力① 技術力について
- ⑩ 専攻力② 表現力について

- ⑪ 専攻力③ 応用力について
- ⑫ 専攻リテラシー ソルフェージュの応用について
- ⑬ 専攻知識 音楽史の理解
- ⑭ 実技試験へ向けて 春学期末の実技試験に向けての取り組む姿勢を考える
- ⑮ レポート レポート提出

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。
出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	プレゼンテーションⅣ
担当講師名	大山智、高梨裕久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管弦打楽器専攻、吹奏楽・マーチング専攻

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

社会に出るために必要な能力、知識の習得を目指し、学習します。
また、演奏においても通常の授業から学んだことをどう活かしていくかを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の考えを効果的に伝えることができるようになる。
授業（知識）を演奏が結びつくようになる

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業概要の説明
- ② 目標設定
- ③ 社会人教育① マナー、コミュニケーション能力について②
- ④ 社会人教育② MC リテラシー②
- ⑤ 社会人教育③ プレゼンテーション能力について②
- ⑥ 社会人教育④ マネジメント能力について②
- ⑦ レポート レポート提出

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。
出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 目標設定
- ⑨ 専攻力① 技術力について②
- ⑩ 専攻力② 表現力について②

- ⑪ 専攻力③ 応用力について②
- ⑫ 専攻リテラシー ソルフェージュの応用について②
- ⑬ 専攻知識 音楽史の理解②
- ⑭ 実技試験へ向けて 春学期末の実技試験に向けての取り組む姿勢を考える②
- ⑮ レポート レポート提出

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。
出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	コンピュータ・ミュージック I
担当講師名	笠原 康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして 3 年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

コンピュータ、シーケンサーの基本操作を学び、ミュージシャンの自己表現ツールとしての活用を目指す。アプリケーションの基本的操作技術を習得し、音楽活動に幅広さや時間短縮など様々な面でプラスアルファにするための講義。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上記授業内容イコール到達目標ですが、ソフトウェアのコマンドだけを覚えても良い音楽にはならないため、コンピュータと音楽の総合的な知識も同時にレベルアップしていくための講義を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ベーシックレビュー 基本知識の再チェック
- ② 各エディットウインドウでの操作方法、MIDI データの読み込みなど
- ③ "様々なファイルフォーマット SMF その他フォーマットについて
- ④ ミキシングの基礎知識 ミキサーウインドウについて
- ⑤ パッチエディット シンセサイザーの基本と音色のエディット
- ⑥ 入力への応用 既存の楽曲を入力する。
- ⑦ 課題曲の制作 最終データを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ソフトウェアを活用したミュージシャンの可能性
- ⑨ オーディオへの変換への流れについて MIDI との相違点
- ⑩ 打ち込みデータの変換。書き出しのプロセス
- ⑪ オーディオデータを楽曲の一部に使用 サンプルデータの読み込み
- ⑫ 音源をオーディオ出力し CUBASE で使用 パートごとのオーディオ変換
- ⑬ 保存方法、ミックスダウンの方法等。ミックスの基礎
- ⑭ 自由曲を入力 個々の学生の問題点を解消
- ⑮ 最終データを提出します。学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	コンピュータ・ミュージックⅡ
担当講師名	笠原 康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして 3 年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

Microsoft office specialist の受検を前提とした エクセル、ワードのスキルアップを目指します。1クォーターでは、WORD、2クォーターでエクセルの基本的コマンドを覚えさせます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

エクセル、ワードの基本をテキストに沿って理解していきます。既に中学、高校で習っている事柄もありますが、復習を兼ねてより完全に把握するという意味で学習します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① FINALE オーバービュー
- ② ページの作成
- ③ 入力作業の実際
- ④ ページセットアップにおける様々なコマンド
- ⑤ 入力と編集の手順
- ⑥ 編集の詳細
- ⑦ 最終データを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

FINALE の基本ができているかをチェックします。出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ "編集作業における様々なコマンド。
- ⑨ "編集作業における様々なコマンド。
- ⑩ アドバンスドな編集方法
- ⑪ アドバンスドな編集方法
- ⑫ 複数楽器の入力と編集
- ⑬ 複数楽器の入力と編集
- ⑭ 複数楽器の入力と編集
- ⑮ 最終データを提出します。

期末試験評価方法・評価基準

FINALE の基本ができているかをチェックします。出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 挨拶、自己紹介
- ② 楽器紹介 I
- ③ 楽器紹介 II
- ④ どんな音楽が好きですか？
- ⑤ 作曲家&作詞家紹介
- ⑥ 期中復習
- ⑦ 期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音楽用語

- ⑨ 海外旅行 I
- ⑩ 海外旅行 II
- ⑪ 発表会 スピーチ I
- ⑫ 発表会 スピーチ II
- ⑬ 音楽祭紹介 I
- ⑭ 期末復習
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 日常英会話（学校）
- ② 将来の計画
- ③ 音楽の履歴を書く
- ④ 音楽の プロフィール を書
- ⑤ リハーサル演奏技法
- ⑥ 期中復習
- ⑦ 期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 面接（大学）

- ⑨ 面接（仕事）
- ⑩ 演奏会感想
- ⑪ コンサート紹介 I
- ⑫ コンサート紹介 II
- ⑬ マスタークラス
- ⑭ 期末復習
- ⑮ 期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の数え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項
